

生活デザイン学科 (開放科目)

科目名	デザイン概論	配当年次 単位数	1年前期/講義 2単位 (必修)	担当者	生活デザイン学科 全教員
授業概要	本講義は、デザイン史、ファッションデザイン、建築インテリアデザイン、ヴィジュアルデザインの分野について概説し、生活デザインの中における各専修の立ち位置を確認することを目的とする。美術およびデザインに関する歴史と現在のデザインを取り巻く様相について、各教員の専門領域に応じ、オムニバス形式で講義を行う。講義後、教員から示されるレポート、課題を、定められた期限までに提出する。				
授業計画	① 4/9 小川「生活デザイン学について」 ② 4/16 奥村「美術史概論」 ③ 4/23 小川「産業革命と近代デザインの成立」 ④ 5/7 服部「建築・インテリアデザインの歴史」 ⑤ 5/14 臼井「デザインと都市」 ⑥ 5/21 加藤「環境共生と建築物緑化デザイン」 ⑦ 5/28 加藤「インテリアと家具のデザイン」 ⑧ 6/4 太田「テキスタイルデザイン」	⑨ 6/11 柴田「染色加工とデザイン」 ⑩ 6/18 村上「ファッションデザインと造形技法」 ⑪ 6/25 太田「消費科学とデザイン」 ⑫ 7/2 中谷「ファッションビジネスとデザイン」 ⑬ 7/9 中谷「消費者ニーズとデザイン」 ⑭ 7/23 奥村「情報デザインのペイシクス」 ⑮ 7/30 坂本「情報社会とデザイン」			
評価方法	全教員に提出した課題の内容を総合して評価する(100%)。				
履修条件	すべての課題を提出すること。ひとつでも未提出の課題がある場合には「不可」となる。欠席した場合には速やかに担当教員を訪ね、課題に関する指示を受けること。				
教科書	なし				
参考書	適時案内する。				

生活デザイン学科

科目名	色彩学	配当年次 単位数	1年前期/講義 2単位 (必修)	担当者	小川 直茂
授業概要	あらゆるデザイン領域において、色彩に関する知識と経験は造形能力と並んで必要不可欠な能力である。本授業では、色彩に関する物理的/心理的な特性や、色彩をめぐるさまざまな理論についての学習を行う。また、PCCS/マンセルシステム/オストワルトシステムなどのカラーシステムに関する学習をはじめとして、色によって生じる心理効果と視覚効果、混色の理論、配色技法、実社会における色彩計画の状況などについて理解を深めることによって、基本的かつ実践的なカラーコーディネート能力を習得することを目指す。				
授業計画	① 講義概説 ② 色とは何か～物理学的見地から ③ 色とは何か～生理学的見地から ④ カラーシステムとPCCS表色系について ⑤ マンセル表色系、オストワルト表色系について ⑥ 色名について/混色について ⑦ 色の心理効果と視覚効果 ⑧ 色彩の調和について～配色の基本概念	⑨ 色彩の調和について～配色技法 ⑩ 生活における色彩 ⑪ 色彩知識と技術の確認 ⑫ 色彩効果の実践学習(1): カラーダイアル作成 ⑬ 色彩効果の実践学習(2): 配色演習 ⑭ 色彩文化について/色彩調和論について ⑮ 色彩計画の社会的役割 ⑯ 試験			
評価方法	試験による評価: 80%、レポート・提出作品・受講態度による評価: 20%				
履修条件	演習に必要な材料費は各自で負担すること				
教科書	A.F.T企画『色彩検定公式テキスト3級編 [第5版]』				
参考書	適時案内する				

生活デザイン学科

科目名	基礎造形	配当年次 単位数	1年前期/演習 2単位(必修)	担当者	小川 直茂
授業概要	<p>本授業では、デザインに携わる上で欠かすことのできない基礎的な造形能力(造形理論・技術・造形感覚)の習得を目標に、アナログを主体としたデザインの専門用具を用いて演習を行う。造形表現の基本要素(形・色彩・構成)について単体で扱う基礎課題から始まり、演習後半では「平面充填からのメタモルフォーシス」など、複数の要素の組み合わせさせた発展的な造形表現に取り組むことによって、造形能力をさまざまなデザイン制作の場面に応用するためのノウハウの習得を目指す。</p>				
授業計画	① 点描画 点の疎密による立体感 ② 烏口の練習～市松模様 ③ 平行線による構成～疎密と太さによる立体感 ④ 平行線による構成～色による透明視 ⑤ 自由直線による構成 ⑥ ネガティブな像による構成～断線・欠線 ⑦ 欠損した円によるネガティブな像の構成 ⑧ 円の漸進変化による構成		⑨ 地と図のグラデーションによる構成 ⑩ 同形分割と等量分割 ⑪ ディストーション ⑫ 同形ユニットによる平面充填 ⑬ 平面充填からのメタモルフォーシス ⑭ 基礎造形技法の応用表現 ⑮ 点による面の構成		
評価方法	提出作品による評価：90%、受講態度による評価：10%				
履修条件	制作に必要な材料費は各自で負担すること				
教科書	文教大学出版事業部『あたらしい基礎造形-造形要素の組み合わせによる造形メソッド-』久保村里正監修				
参考書	適時案内する				

生活デザイン学科 (VD専修必修/FD専修・ID専修選択)

科目名	デッサン	配当年次 単位数	1年前期/演習 2単位(上記参照)	担当者	中風 明世
授業概要	<p>私たちは、視覚において、世界を三次元(空間、立体)で把握しています。創造した視覚イメージを、第三者に、美しく、正確に伝達する為に、建築など構造物を含めた風景デッサン、身の回りの静物・風景・人物デッサンを、三つの遠近法を理解しながら修得します。また、デッサンにおいて最も重要なことは、観察する事柄に対する動機(の深さと美しさ)です。本学周辺の豊かな自然をスケッチしたり、過去の名作を鑑賞する事で、創造の心を学びます。</p>				
授業計画	① はじめに 遠近法の重要性についての理解 ② 線遠近法 四角い箱をモチーフにデッサン ③ 線遠近法 デッサンを通じて理解を深める ④ 線遠近法 円筒形をモチーフにデッサン ⑤ 空気遠近法 円筒形をモチーフにデッサン ⑥ 空気遠近法 球をモチーフにデッサン ⑦ 明度描写 ハイライトから最暗部への理解 ⑧ 明度描写 デッサンを通じて理解を深める		⑨ 三遠近法の調和 学校周辺の風景、または静物 ⑩ 三遠近法の調和 描写を深める ⑪ 三遠近法の調和 学校周辺の風景、または静物 ⑫ 三遠近法の調和 描写を深める ⑬ 三遠近法の調和 学校周辺の風景、または静物 ⑭ 三遠近法の調和 描写を深める ⑮ まとめ		
評価方法	出席状況・授業態度30%、提出物70% 初回の講義で指定する。				
履修条件	なし				
教科書	なし				
参考書	なし				

生活デザイン学科（FD専修必修／ID専修・VD専修選択）

科目名	生活材料学	配当年次 単位数	1年前期／講義 2単位（上記参照）	担当者	太田 幸一		
授業概要	<p>私達の身の回りの日常生活用品は、さまざまな素材を巧みに加工して利用され、さらに快適な生活ができるように発展が著しい。その素材は繊維、プラスチック、木材、金属など多岐にわたっている。</p> <p>この講義では、アパレル製品を始めインテリア製品にも多用されている繊維製品を中心に、材料の構造、固有性能、製造方法、利用分野などを解説する。また材料見本を実際に手にすることにより、各種糸、織物、編物、加工素材の触感、風合いを身近なものとしてとらえ、生活材料の適切で合理的な利用方法を理解する。</p>						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ① 生活材料と人間、繊維の分類 ② 天然高分子材料(1) 植物繊維 ③ 天然高分子材料(2) 動物繊維 ④ 合成高分子材料(1) 再生繊維・半合成繊維 ⑤ 合成高分子材料(2) 合成繊維 ⑥ 繊維集合体(1) 糸 ⑦ 繊維集合体(2) 織物 ⑧ 繊維集合体(3) 編物、レース </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ⑨ 不織布、毛皮、皮革、副資材 ⑩ ウール講座(1)(繊維から布へ) ⑪ 材料の各種機能性を改善する加工 ⑫ 材料の機械的性能 ⑬ 材料の外観、風合い、形態安定性能 ⑭ 材料の保健衛生的性能 ⑮ 家庭用品品質表示法、JISによる表示 ⑯ 試験（記述式、持ち込みは不可） </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> ① 生活材料と人間、繊維の分類 ② 天然高分子材料(1) 植物繊維 ③ 天然高分子材料(2) 動物繊維 ④ 合成高分子材料(1) 再生繊維・半合成繊維 ⑤ 合成高分子材料(2) 合成繊維 ⑥ 繊維集合体(1) 糸 ⑦ 繊維集合体(2) 織物 ⑧ 繊維集合体(3) 編物、レース 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 不織布、毛皮、皮革、副資材 ⑩ ウール講座(1)(繊維から布へ) ⑪ 材料の各種機能性を改善する加工 ⑫ 材料の機械的性能 ⑬ 材料の外観、風合い、形態安定性能 ⑭ 材料の保健衛生的性能 ⑮ 家庭用品品質表示法、JISによる表示 ⑯ 試験（記述式、持ち込みは不可）
<ul style="list-style-type: none"> ① 生活材料と人間、繊維の分類 ② 天然高分子材料(1) 植物繊維 ③ 天然高分子材料(2) 動物繊維 ④ 合成高分子材料(1) 再生繊維・半合成繊維 ⑤ 合成高分子材料(2) 合成繊維 ⑥ 繊維集合体(1) 糸 ⑦ 繊維集合体(2) 織物 ⑧ 繊維集合体(3) 編物、レース 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 不織布、毛皮、皮革、副資材 ⑩ ウール講座(1)(繊維から布へ) ⑪ 材料の各種機能性を改善する加工 ⑫ 材料の機械的性能 ⑬ 材料の外観、風合い、形態安定性能 ⑭ 材料の保健衛生的性能 ⑮ 家庭用品品質表示法、JISによる表示 ⑯ 試験（記述式、持ち込みは不可） 						
評価方法	出席状況・受講態度20%、期末試験80%で、総合判定する						
履修条件	なし						
教科書	アイ・ケイコーポレーション「改訂生活材料学 ファッションとインテリア」 別途配付資料あり						
参考書	日刊工業新聞「はじめて学ぶ繊維」建帛社「衣服材料の科学」						

生活デザイン学科（FD専修必修／ID専修・VD専修選択）

科目名	ファッションデザイン論	配当年次 単位数	1年前期／講義 2単位（上記参照）	担当者	中谷 友机子		
授業概要	<p>ファッションデザインとは。ファッションデザインにおける意義・重要性・役割、さらに、影響を考察する。人と衣服、ファッションの関わりをデザインの視点から研究し、時代の変遷とともに変容していったデザインの位置づけ、消費社会の特徴やデザイン価値を理解する。</p> <p>また、展覧会などを視察し、アートや工芸デザインとの関連や、現在におけるファッションデザインの多様性と可能性を学ぶ。 （※美術展等の開催時期により授業計画が移動する場合がある）</p>						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ① なぜ衣服を着るのか ② ファッションデザインの要素と定義 ③ アパレルファッションと色彩の関係 ④ ブランドとデザイン力 ⑤ ファッションと流行の関わり ⑥ ファッションと文化の関わり ⑦ ファッションと世代の関わり ⑧ 近代消費社会の誕生とオートクチュールの誕生 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ⑨ 身体性とデザイン（ポアレとヴィオネ） ⑩ 産業とデザイン（シャネルとディオール） ⑪ 構成とデザイン（三宅一生と川久保玲） ⑫ 若者ストリートファッションの消費心理 ⑬ 流通・社会・文化・世代とデザインの関係 ⑭ ユニバーサルデザイン ⑮ 美術展見学 </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> ① なぜ衣服を着るのか ② ファッションデザインの要素と定義 ③ アパレルファッションと色彩の関係 ④ ブランドとデザイン力 ⑤ ファッションと流行の関わり ⑥ ファッションと文化の関わり ⑦ ファッションと世代の関わり ⑧ 近代消費社会の誕生とオートクチュールの誕生 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 身体性とデザイン（ポアレとヴィオネ） ⑩ 産業とデザイン（シャネルとディオール） ⑪ 構成とデザイン（三宅一生と川久保玲） ⑫ 若者ストリートファッションの消費心理 ⑬ 流通・社会・文化・世代とデザインの関係 ⑭ ユニバーサルデザイン ⑮ 美術展見学
<ul style="list-style-type: none"> ① なぜ衣服を着るのか ② ファッションデザインの要素と定義 ③ アパレルファッションと色彩の関係 ④ ブランドとデザイン力 ⑤ ファッションと流行の関わり ⑥ ファッションと文化の関わり ⑦ ファッションと世代の関わり ⑧ 近代消費社会の誕生とオートクチュールの誕生 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 身体性とデザイン（ポアレとヴィオネ） ⑩ 産業とデザイン（シャネルとディオール） ⑪ 構成とデザイン（三宅一生と川久保玲） ⑫ 若者ストリートファッションの消費心理 ⑬ 流通・社会・文化・世代とデザインの関係 ⑭ ユニバーサルデザイン ⑮ 美術展見学 						
評価方法	受講態度20%、グループ研究と発表50%、研究レポート30%						
履修条件	衣料管理士必修。外部の催事・美術展の見学は交通費（有料の場合は入場料）が必要。						
教科書	中谷友机子『ファッション業界の流通・社会・文化・世代 需要と供給の関係』日本国語国学研究所						
参考書	北山晴一『衣服は肉体に何を与えたか』朝日新聞社、実川元子『ココ・シャネル』理論社ほか、講義にて紹介。						

生活デザイン学科（ID専修必修／FD専修・VD専修選択）

科目名	建築・インテリア概論	配当年次 単位数	1年後期／講義 2単位（上記参照）	担当者	加藤 祥子
授業概要	<p>生活環境の基盤となる建築とは何か、建築家とは何かを考え、家具からインテリア、庭を含めた空間のあり方について考える。</p> <p>建築・インテリアの歴史を学び、現在に至る変遷を理解する。用途別にみた建築の種類を整理し、建築が供給されるシステムから社会的にみた建築を位置づける。家具の種類や素材、構成を紹介し、建築とインテリア、家具との関わりを考える。</p>				
授業計画	<p>① 建築・インテリアの歴史</p> <p>② 建築の様式とインテリアスタイル</p> <p>③ 建築の役割と種類</p> <p>④ 建築と建築家(1)</p> <p>⑤ 建築と建築家(2)</p> <p>⑥ 建築と家具</p> <p>⑦ 家具の歴史(1) 古代から近代まで</p> <p>⑧ 家具の歴史(2) 近代から現代まで</p>		<p>⑨ 課題成果の発表</p> <p>⑩ 建築・インテリアの色彩計画</p> <p>⑪ 建築・インテリアのユニバーサルデザイン</p> <p>⑫ 建築・インテリアのサステイナブルデザイン</p> <p>⑬ ストック形成の住宅政策</p> <p>⑭ 建築とランドスケープ</p> <p>⑮ 建築と庭</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
評価方法	出席状況・授業態度20%、レポート・定期試験80%				
履修条件	なし				
教科書	適宜、資料を配布				
参考書	適宜、資料を配布				

生活デザイン学科（ID専修必修／FD専修・VD専修選択）

科目名	インテリアデザイン論	配当年次 単位数	1年後期／講義 2単位（上記参照）	担当者	加藤 祥子
授業概要	<p>人間が主に生活の場とする室内空間を、生活する人間の立場で捉え、計画する。インテリアという概念が発生、成立した歴史を学ぶ。また、インテリアは多様な構成要素が相互に関連し合った集合体であり、各要素を理解し、インテリアを計画するための知識を修得する。人間の立場から室内空間のあり方を考える。講義の後半では、インテリアの設備である照明の計画・制作を演習する。</p>				
授業計画	<p>① インテリア概念の成立</p> <p>② インテリアの構成要素</p> <p>③ 壁・床・天井(1)</p> <p>④ 壁・床・天井(2)</p> <p>⑤ 開口部（出入口・窓）(1)</p> <p>⑥ 開口部（出入口・窓）(2)</p> <p>⑦ 家具の形態</p> <p>⑧ 家具と人体との関係</p>		<p>⑨ インテリアの材料・素材</p> <p>⑩ インテリアの設備</p> <p>⑪ インテリア照明の計画</p> <p>⑫ インテリア照明の制作</p> <p>⑬ インテリア照明の成果発表</p> <p>⑭ インテリアアクセサリ</p> <p>⑮ インテリアの緑化</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
評価方法	出席状況・授業態度20%、レポート・提出課題・定期試験80%				
履修条件	制作に必要な材料費等は各自で負担				
教科書	適宜、資料を配布				
参考書	適宜、資料を配布				

生活デザイン学科（VD専修必修/FD専修・ID専修選択）

科目名	美術・デザイン史	配当年次 単位数	1年前期/講義 2単位（上記参照）	担当者	坂本 牧葉
授業概要	古代から現代までの美術・デザインの歴史について学ぶ。本講義では時系列の流れで、各時代の様式や作家・デザイナーについて、実例の作品紹介・解説をしながらすすめる。美術・デザインの発展・変遷の流れと、社会との関係性を理解することを通して、今後の制作における発想と理解とに役立てることを目的とする。				
授業計画	① イントロダクション、古代の美術 ② 古代ギリシャ・ローマ ③ 中世ヨーロッパ(1) ④ 中世ヨーロッパ(2) ⑤ 14-16世紀：イタリア、フランス、ドイツ(1) ⑥ 14-16世紀：イタリア、フランス、ドイツ(2) ⑦ 17-18世紀：スペイン、オランダ(1) ⑧ 17-18世紀：スペイン、オランダ(2)	⑨ 18-19世紀：フランス、イタリア、イギリス(1) ⑩ 18-19世紀：フランス、イタリア、イギリス(2) ⑪ 18-19世紀：イギリス、フランス、ドイツ(1) ⑫ 19-19世紀：イギリス、フランス、ドイツ(2) ⑬ 19-20世紀：日本、欧米諸国(1) ⑭ 19-20世紀：日本、欧米諸国(2)			
評価方法	定期試験・小テスト・レポート課題80%、出席・授業態度20%				
履修条件	なし				
教科書	術出版社 増補新装 カラー版 世界デザイン史				
参考書	美術出版社 増補新装 カラー版 西洋美術史、小学館 西洋美術館				

生活デザイン学科（VD専修必修/FD専修・ID専修選択）

科目名	メディアデザイン論	配当年次 単位数	1年後期/講義 2単位（上記参照）	担当者	奥村 和則
授業概要	メディアデザインとは、画像・映像・サウンド・テキスト・通信・アート・本など様々なジャンルのプラットフォームを横断させながら創り上げていくデザイン表現手法である。現代にみられるこのメディアについて、その役割と仕組みを、事例を通し考察していく。また、メディアデザインと密接に関係しており、社会において重大な役割を果たすマルチメディア・デバイスやIoT（Internet of Things）について理解し、マルチメディア検定の資格取得を目指す。				
授業計画	① イントロダクション ② メディアデザインとマルチメディア(1)－歴史変遷 ③ メディアデザインとマルチメディア(2)－IoT装置 ④ メディアデザインとマルチメディア(3)－社会変化 ⑤ メディアデザインとマルチメディア(4)－法・特許 ⑥ メディアデザインとマルチメディア テスト ⑦ コンピュータによる表現の変化 ⑧ 紙メディアのデザイン	⑨ 映像メディアのデザイン ⑩ デザイン戦略とメディア ⑪ 広告にみるメディアデザイン ⑫ コミュニケーションデザイン ⑬ メディアアートとインタラクティブ性 ⑭ メディアリテラシーとテレビ放送 ⑮ メディアデバイスとしての携帯電話の変遷 ⑯ 定期試験			
評価方法	出席状況・授業態度20%、定期試験70%、提出物10%				
履修条件	なし				
教科書	CG-ARTS 協会「入門マルチメディア」				
参考書	初回の講義で指定する				

生活デザイン学科（FD専修）

科目名	ファッションデザイン画Ⅰ	配当年次 単位数	1年前期／演習 2単位（必修）	担当者	北野 淳子
授業概要	デザインの基礎を学び、衣服のディテールや素材など、それぞれの目的に合った表現法を習得する。顔・プロポーション・着装描法・画材の特性研究を経て、作品制作を行う。各種コンテストは、自由参加であるが、靴・ファッション雑貨など小物にて、全員参加あり。				
授業計画	① 顔(1) パーツの位置の把握と形の理解 ② 手、脚 形を理解しポーズの描法演習 ③ プロポーション(1) 基本ポーズの作成（正面） ④ プロポーション(1) 基本ポーズの作成（横・後） ⑤ 着装(1) ベーシックアイテムの着装から、デザイン及び動作による服の変化の理解 ⑥ 着装(2) 動作による衣服のしわの変化の理解 ⑦ 着彩(1) 画材の特性とスタイル画における使用手順・効果を理解し、様々な着彩法を演習 ⑧ 着彩(2) 素材との相性を理解し着彩法を演習	⑨ 布の表現（ギャザー・フレアー・ドレープ） ⑩ 素材別表現法(1) 基本素材を中心に画材の組み合わせを研究し、織・柄等の描法 ⑪ 素材別表現法(2) ⑫ シルエットの変化とダーツ、切替線などデザイン線の理解 ⑬ ハンガーイラスト基本演習（(シャツ)） ⑭ ハンガーイラスト基本演習（テーラードJK） ⑮ ハンガーイラスト基本演習（スカート・パンツ） ⑯ 定期試験			
評価方法	受講態度20%、提出課題50%、定期試験30%				
履修条件	コンテスト登録料自己負担、材料費一部自己負担				
教科書	文化ファッション大系 ファッションデザイン画				
参考書	必要に応じて随時紹介				

生活デザイン学科（FD専修）

科目名	ファッションデザイン画Ⅱ	配当年次 単位数	2年前期／演習 2単位（選択）	担当者	北野 淳子
授業概要	ファッショントレンド情報の理解と基礎知識を学び、企業で実践的なデザイン画であるハンガーイラストの表現法やシーズントレンドと素材感を正確に表現する方法を習得する。各種コンテストへ積極的に参加させる。				
授業計画	① 顔(2) いろいろな角度の研究 ② プロポーション(2) ポーズの研究Ⅰ ③ プロポーション(2) ポーズの研究Ⅱ ④ テーマに沿ったイメージデザインの描法演習 ⑤ ディテール演習(1) トップス（衿、袖） ⑥ ディテール演習(2) ボトムス（スカート、パンツ） ⑦ ハンガーイラスト演習(1) トップス ⑧ ハンガーイラスト演習(2) ボトムス	⑨ ハンガーイラスト演習(3) ジャケット ⑩ ハンガーイラスト演習(4) ワンピース、コート ⑪ プロポーション(3) メンズ基本ポーズ ⑫ プロポーション(4) チャイルド基本ポーズⅠ ⑬ プロポーション(4) チャイルド基本ポーズⅡ ⑭ 早描き パネル製作(1) ⑮ 早描き パネル製作(2) ⑯ 定期試験			
評価方法	受講態度10%、提出課題60%、定期試験30%				
履修条件	コンテスト登録料自己負担、材料費一部自己負担				
教科書	文化ファッション大系 ファッションデザイン画				
参考書	必要に応じて随時紹介				

生活デザイン学科 (FD専修)

科目名	ファッションデザイン演習 I	配当年次 単位数	1年後期/演習 2単位 (必修)	担当者	中谷 友光子
授業概要	ファッションデザインの発想方法を習得し、それに基づきファッションデザインの表現力を養う。 ファッションデザインを行う上での必要な知識を得ると同時に、色彩学、材料学、造形演習、服飾文化史、美術・デザイン史などで学んだ知識をリンクさせて、アイデアソースを収集しファッションデザインに応用していく方法や、デザインの展開方法を学ぶ。 (※美術展見学や学外セミナー受講のため、授業計画が移動することがある)				
授業計画	① ファッションデザインとは (ハンガーイラスト) ② ファッションデザインの基礎 (ヌードボディ) ③ シルエットをデザインする (直線～曲線) ④ 色彩をデザインする (トーン・トーン～配色) ⑤ 学外授業 (セミナーなど) ⑥ デザイン構成するー(1) ⑦ デザイン構成するー(2) ⑧ デザイン構成するー(3)	⑨ イメージをデザインする (4テイストから) ⑩ 美術展見学 ⑪ 民族服をデザインする (民族服から) ⑫ 日本の美をデザインする ⑬ ゴシック・ロココデザインをする ⑭ アールヌーボー・アールデコデザインをする ⑮ ファッションデザインを楽しむ			
評価方法	受講態度20%、レポート提出課題30%、最終提出デザイン集 (デザインファイル) 50%				
履修条件	衣料管理士必修。前期「服飾文化史」「美術・デザイン史」の履修が望ましい。美術展見学などの交通費・入場料が必要。				
教科書	文化ファッション大系専門講座⑨『服飾デザイン』文化出版局				
参考書	文化ファッション大系専門講座④『ファッションデザイン画』文化出版局				

生活デザイン学科 (FD専修)

【対象：平成30年度入学の学生】

科目名	ファッション造形論	配当年次 単位数	1年後期/講義 2単位 (必修)	担当者	柴田 佐和子
授業概要	デザインの発想から、パターンメイキング、縫製加工、着装までの、アパレル (衣服) の設計・生産の過程の中で、人体形態とパターンに関する基礎知識、パターンとデザイン、デザインに合わせた素材選択および素材に適した縫製方法 (使用機器、技術) についての専門知識を習得する。さらにアパレル生産の基礎知識の習得をとおして、生活者やアパレル生産者に有益な、美しく快適な着心地を与えるアパレルの本質と合理的な衣生活の実現に向けてのアパレルに関する科学的理解と知識を深める。				
授業計画	① 衣服の美しさ、快適な衣生活とアパレル設計 ② 衣服と人体ー人体の構造、体型、人体計測ー ③ アパレルの種類、シルエットと求められる性能 ④ パターン設計ー人体形態と原型ー ⑤ パターン設計ーデザイン展開ー ⑥ 布地の立体化の技法 ⑦ 布地の立体化と布の力学特性 ⑧ 表地の種類と素材選定ー天然繊維・短繊維素材ー	⑨ 表地の種類と素材選定ー合成繊維・長繊維素材ー ⑩ 表地の種類と素材選定ーニットの特徴と種類ー ⑪ 裏地と芯地の役割と種類、素材選定 ⑫ 既製服の衣料サイズと工業用ボディ ⑬ プロダクトパターン、縫製仕様書の作成 ⑭ 縫製技術ー縫い目、縫い合せの種類と機器ー ⑮ 縫製上の問題点と、素材・機器の関係 ⑯ 試験			
評価方法	出席状況・授業態度20%、課題提出20%、期末試験60%				
履修条件	衣料管理士必修				
教科書	日本衣料管理協会「アパレル設計論・アパレル生産論」				
参考書	文化出版局「服飾造形学 理論編I」				

生活デザイン学科 (FD専修)

【対象:平成29年度入学の学生】

科目名	ファッション造形論	配当年次 単位数	2年前期/講義 2単位 (必修)	担当者	柴田 佐和子
授業概要	デザインの発想から、パターンメイキング、縫製加工、着装までの、アパレル (衣服) の設計・生産の過程の中で、人体形態とパターンに関する基礎知識、パターンとデザイン、デザインに合わせた素材選択および素材に適した縫製方法 (使用機器、技術) についての専門知識を習得する。さらにアパレル生産の基礎知識の習得をとおして、生活者やアパレル生産者に有益な、美しく快適な着心地を与えるアパレルの本質と合理的な衣生活の実現に向けてのアパレルに関する科学的理解と知識を深める。また、学外での尾州産地研修も併せて行う。				
授業計画	① 衣服の美しさ、快適な衣生活とアパレル設計 ② 衣服と人体—人体の構造、体型、人体計測— ③ アパレルの種類、シルエットと求められる性能 ④ パターン設計—人体形態と原型— ⑤ パターン設計—デザイン展開— ⑥ 布地の立体化の技法 ⑦ 布地の立体化と布の力学特性 ⑧ 学外 工場見学(丸編、紡績)	⑨ 表地の種類と素材選定 ⑩ 表地の種類と素材選定—ニットの特徴と種類— ⑪ 裏地と芯地の役割と種類、素材選定 ⑫ 既製服の衣料サイズと工業用ボディ ⑬ プロダクトパターン、縫製仕様書の作成 ⑭ 縫製技術—縫い目、縫い合せの種類と機器— ⑮ 縫製上の問題点と、素材・機器の関係 ⑯ 試験			
評価方法	出席状況・授業態度20%、課題提出20%、期末試験60%				
履修条件	衣料管理士必修				
教科書	日本衣料管理協会「アパレル設計論・アパレル生産論」				
参考書	文化出版局「服飾造形学 理論編I」				

生活デザイン学科 (FD専修)

科目名	ファッション造形演習 I	配当年次 単位数	1年前期/演習 2単位 (必修)	担当者	村上 真知子
授業概要	ベーシックドレスの製作を通して各自の体型を把握するとともに、各自の身体にフィットする原型を作成する。また、その原型を使って、ブラウス制作する。 制作では、ファーストパターンの製図の後、工業パターンを用い、綿素材を用いた基本的なデザインのシャツブラウスを縫製し、パターン展開、綿素材の扱い方、合理的な縫製技術を習得する。また、素材名称を覚え、素材選定と扱い方、素材に適した縫製技法の選択と、身体とパターンについての理解を深める。				
授業計画	① ガイダンス、ベーシックドレス(1) 採寸 ② ベーシックドレス(2)パターンメイキング ③ ベーシックドレス(3) トワール裁断、縫製 ④ ベーシックドレス(4) 縫製、試着、補正 ⑤ブラウス(1) 素材、パターンメイキング ⑥ブラウス(2) パターンメイキング ⑦ブラウス(3) 工業パターンの作成 ⑧ 縫製仕様書の作成	⑨ブラウス(4) 表地の裁断、芯地の裁断 ⑩ブラウス(5) 衿の縫製 ⑪ブラウス(6) 衿の縫製と仕上がり確認、袖の縫製 ⑫ブラウス(7) 袖の縫製と仕上がり確認 ⑬ブラウス(8) 身頃の縫製、衿付け ⑭ブラウス(9) 袖付け ⑮ブラウス(10) ボタンホール、仕上げ、着装 ⑯ 筆記試験			
評価方法	受講態度10%、最終課題作品50%、筆記試験40%で評価する。				
履修条件	製作に必要な材料費(生地代、副資材代等)は各自の負担とする。				
教科書	文化ファッション大系 服装造形講座①服飾造形の基礎 (文化出版局)。また、制作テキストを配付する。				
参考書	文化ファッション大系 服装造形講座③ブラウス・ワンピース (文化出版局)				

生活デザイン学科（FD専修）

科目名	ファッション造形演習Ⅱ	配当年次 単位数	1年後期／演習 2単位（必修）	担当者	村上 眞知子
授業概要	基本のタイトスカートのパターンメイキングを通して、人体下半身体型の特徴を把握するとともに、身体にフィットする原型を作成する。また、羊毛素材を用い、その扱い方を理解するとともに、裏地の必要性と扱い方を習得する。スカートは、工業パターンを作成し、スカートの構造、パターン展開、羊毛素材と裏地の縫製について学ぶとともに、素材名称の理解、選定と扱い方、合理的な縫製技術の基礎を習得する。また、尾州テキスタイルについて、学外での研修(製織工場、染色・仕上げ工場の見学)も併せて実施する。				
授業計画	① 人体下半身の人体因子とスカートの構造、採寸 ② スカートの基本パターン(1) パターンメイキング ③ スカートの基本パターン(2) 縫製 ④ 工場見学(1) (製織、染色・仕上げ)(時期変更有) ⑤ スカートの基本パターン(3) 試着、補正 ⑥ スカートの製作(1) 工業パターンメイキング ⑦ スカートの製作(2) ⑥の続き ⑧ 縫製仕様書作成	⑨ スカートの製作(3) 表地の裁断 ⑩ スカートの製作(4) 裏地、芯地の裁断 ⑪ スカートの製作(5) 縫製(ダーツ) ⑫ スカートの製作(6) 縫製(ファスナーつけ) ⑬ スカートの製作(7) 縫製(ベンツと脇、裾) ⑭ スカートの製作(8) 縫製(裏スカート、まとめ) ⑮ スカートの製作(9) 仕上げ、着装 ⑯ 筆記試験			
評価方法	受講態度20%、最終課題作品50%、筆記試験30%で評価する。				
履修条件	製作に必要な材料費(生地代、副資材代等)、および学外研修にかかる費用の一部は各自の負担とする。				
教科書	文化ファッション大系 服装造形講座①服飾造形の基礎 (文化出版局) (前期購入)。また、制作テキストを配付する。				
参考書	文化ファッション大系 服装造形講座②スカート・パンツ (文化出版局)				

生活デザイン学科（FD専修）

科目名	ファッション造形演習Ⅲ	配当年次 単位数	2年前期／演習 2単位（選択）	担当者	村上 眞知子
授業概要	ファッション造形演習Ⅰ、Ⅱで習得した基本技術を深めより高度なデザイン表現をするために、造形技法として多くの要素を持つテーラードジャケットを取り上げ、パターンメイキングから縫製のプロセスについて習得する。デザインと素材、パターンの関係を、演習を通して習得するとともに、造形表現能力を高める。縫製方法として、合理的な工業生産の手法を取り入れる。パターンメイキング力を高めるため、3面構成と4面構成の両方を行い、いずれか1点を縫製する。今年度は「Tweed Run」を視野に入れた素材選定で、制作を進める。				
授業計画	① ジャケットの構造の説明 ② パターンメイキング(1) 4面構成のジャケット ③ パターンメイキング(2) 3面構成のジャケット ④ パターンメイキング(3) 袖、衿 ⑤ トワールによるサンプル作成、試着、補正 ⑥ 工業用パターンメイキング(1) 表地、衿、見返し ⑦ 工業用パターンメイキング(2) 裏地、芯地 ⑧ 縫製仕様書作成	⑨ 表地と裏地の裁断、接着芯の裁断と芯貼り ⑩ 身頃縫製、ポケット作り ⑪ 袖の縫製 ⑫ 衿付け ⑬ 裏身頃の縫製 ⑭ 表身頃と裏身頃をあわせる ⑮ 仕上げ、着装 ⑯ 筆記試験			
評価方法	出席状態および受講態度10%、課題作品50%、筆記試験40%で評価する。				
履修条件	製作に必要な材料費(生地代、副資材代等)は受講生の負担とする。				
教科書	文化ファッション大系 服装造形講座 ④ジャケット・ベスト(文化出版局)、補助テキストも配付する。				
参考書					

生活デザイン学科（FD専修）

科目名	ファッション造形演習Ⅳ	配当年次 単位数	2年後期／演習 1単位（選択）	担当者	村上 眞知子
授業概要	大裁ち女物単衣長着の制作または、創作的作品の制作のいずれかを行う。創作的作品の制作では、オリジナルデザインの衣服の制作で、高度な縫製技法を用いた、高級素材による制作など、2年間の造形演習のまとめとして、発展的な内容で制作を進める。新規に作品を制作することの他、卒業研究の作品制作上の問題解決をはかり、制作を進めることも可能である。一方、浴衣制作では、浴衣(和服)の制作を通して、平面構成の衣服についての知識を深め、基本の制作技術を習得する。授業計画では、浴衣制作の場合についての進行計画を示す。				
授業計画	① 平面構成の基礎知識(構成、用語、素材、縫製) ② 浴衣の制作(1) 素材の購入 ③ 浴衣の制作(2) 基本の縫い方の種類と用途 ④ 浴衣の制作(3) サイズ決め、柄合わせ ⑤ 浴衣の制作(4) 裁断、背縫い、印付け ⑥ 浴衣の制作(5) 袖の印付け、袖づくり ⑦ 浴衣の制作(6) 身頃作り(肩当て、居敷当て) ⑧ 浴衣の制作(7) 衿の印付け、衿付け、衿下衿	⑨ 浴衣の制作(8) 衿の印付け、衿付け(1) ⑩ 浴衣の制作(9) 衿の印付け、衿付け(2) ⑪ 浴衣の制作(10) 脇縫いと縫込みの始末(1) ⑫ 浴衣の制作(4) 脇縫いと縫込みの始末(2) ⑬ 浴衣の制作(5) 裾の三つ折り衿 ⑭ 浴衣の制作(6) 袖付けと縫い代の始末 ⑮ 浴衣の制作(7) 仕上げ、着装 ⑯ レポートのまとめと提出			
評価方法	受講態度20%、最終課題作品50%、提出レポート40%で評価する。				
履修条件	制作に必要な材料費(生地代、副資材代等)は各自の負担とする。				
教科書	プリント配布				
参考書					

生活デザイン学科（FD専修）

科目名	パターンメイキング論	配当年次 単位数	2年前期／講義 2単位（必修）	担当者	村上 眞知子
授業概要	人体の形態とパターンの関係、フラットパターンメイキングの技法、マニピュレーション、グレーディングの方法を習得し、人体形態や運動量への適合性、素材にふさわしいデザイン線やゆりの設定、プロダクトパターンの作成等、デザインイメージを的確に表現できる能力を身につける。また、ハンガーイラストとパターン、立体を対比させ正確な表現ができる能力を身につける。パターンメイキング技術検定3級、2級の取得を目指す(6月2日筆記試験、9月8日実技試験)。				
授業計画	① 衣服製作のための人体把握と身体計測 ② 身頃原型の展開とデザイン ③ 身頃原型の展開とデザイン ④ 袖の種類とパターンメイキング(1) ⑤ 袖の種類とパターンメイキング(2) ⑥ 衿の種類とパターンメイキング ⑦ スカート原型の展開とデザイン (1) ⑧ スカート原型の展開とデザイン (2)	⑨ 工業パターンの作成 一縫い代、縫製記号— ⑩ デザイン、素材とパターンメイキング ⑪ 身頃、袖、襟、スカートのグレーディング ⑫ ワンピースの製図、工業パターンの作成 ⑬ ジャケットの種類とパターンメイキング ⑭ テーラードジャケットのパターンメイキング ⑮ パンツのパターンメイキング ⑯ 筆記試験			
評価方法	出席状態および受講態度10%、課題作品50%、筆記試験40%で評価する。				
履修条件					
教科書	プリント配布				
参考書	(財)日本ファッション教育振興協会パターンメイキング3級ガイドブック				

生活デザイン学科（FD専修）

科目名	CADパターンメイキング演習	配当年次 単位数	2年前期/演習 1単位（選択）	担当者	村上 真知子		
授業概要	<p>アパレルCADの使い方を習得する。また同ソフトを使って、上衣、ボトムスの製図と展開方法、各種衣服アイテムのパターンメイキングを習得する。また、フラットパターンメイキングの技法、工業パターンの作成、マーキングの方法を習得し、アパレル製造において不可欠となっているCADによるパターンメイキングの技能を身につける。また立体裁断で作成したパターンのデータ化、デザイン画のデータ化、縫製仕様書作成についても学ぶ。</p>						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ① アパレルCADの概要と基本操作 ② 基本のスカートの製図(1) ③ 基本のスカートの製図(2) ④ 基本スカートの展開(1) (セミタイト、フレア) ⑤ 基本スカートの展開(2) (切り替え、マーメイド、他) ⑥ タイトスカートの工業パターン作成 ⑦ 身頃原型の製図 ⑧ ブラウス(シャツカラー)製図(1) </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ⑨ ブラウス(シャツカラー)製図(2) ⑩ ブラウスの工業パターン作成(1) ⑪ ブラウスの工業パターン作成(2) ⑫ 衿、袖の製図と展開(1) ⑬ 衿、袖の製図と展開(2) ⑭ グレーディング ⑮ デジタイザー入力、まとめ ⑯ 試験 課題アイテムの製図 </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> ① アパレルCADの概要と基本操作 ② 基本のスカートの製図(1) ③ 基本のスカートの製図(2) ④ 基本スカートの展開(1) (セミタイト、フレア) ⑤ 基本スカートの展開(2) (切り替え、マーメイド、他) ⑥ タイトスカートの工業パターン作成 ⑦ 身頃原型の製図 ⑧ ブラウス(シャツカラー)製図(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ ブラウス(シャツカラー)製図(2) ⑩ ブラウスの工業パターン作成(1) ⑪ ブラウスの工業パターン作成(2) ⑫ 衿、袖の製図と展開(1) ⑬ 衿、袖の製図と展開(2) ⑭ グレーディング ⑮ デジタイザー入力、まとめ ⑯ 試験 課題アイテムの製図
<ul style="list-style-type: none"> ① アパレルCADの概要と基本操作 ② 基本のスカートの製図(1) ③ 基本のスカートの製図(2) ④ 基本スカートの展開(1) (セミタイト、フレア) ⑤ 基本スカートの展開(2) (切り替え、マーメイド、他) ⑥ タイトスカートの工業パターン作成 ⑦ 身頃原型の製図 ⑧ ブラウス(シャツカラー)製図(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ ブラウス(シャツカラー)製図(2) ⑩ ブラウスの工業パターン作成(1) ⑪ ブラウスの工業パターン作成(2) ⑫ 衿、袖の製図と展開(1) ⑬ 衿、袖の製図と展開(2) ⑭ グレーディング ⑮ デジタイザー入力、まとめ ⑯ 試験 課題アイテムの製図 						
評価方法	受講態度20%、課題提出40%、試験40%で評価する。						
履修条件	国内アパレル企業で最も汎用性のあるソフトを使用しているため、将来の進路の幅を広げるために履修が望ましい。						
教科書	プリント配布						
参考書							

生活デザイン学科（FD専修）

科目名	ドレーピングⅠ（基礎）	配当年次 単位数	1年後期/演習 2単位（必修）	担当者	堀田 悦子		
授業概要	<p>ドレーピング（立体裁断）とは、さまざまな種類の人台を使用して、直接布を当てて形を作り、デザインを表現する方法である。ドレーピングは、着心地の良い、機能性の伴うよいパターンを作ることが目的なので、人体の特性と衣服の関連を学び、構造原理を理解することが大切である。色々なアイテムやディテールの演習を通して、基本方法を習得し、よいパターンメイキングとクリエイションのステップにつなげる。また、日本ファッション教育振興会パターンメイキング技術検定3級取得するための技術を身につける。</p>						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ① ドレーピングの基礎・準備 ② タイトスカート(1) ③ タイトスカート(2)パターンドラフティング ④ タイトスカート(3)再組立て ⑤ フレアスカート(1) ⑥ フレアスカート(2)再組立て ⑦ ストレートスローパー(1) ⑧ ストレートスローパー(2)再組立て </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ⑨ タイトスローパー(1) ⑩ タイトスローパー(2)再組立て ⑪ ダーツ移動(1)折り紙 ⑫ ダーツ移動(2)バリエーション ⑬ 衿(1) ⑭ 衿(2) ⑮ 袖 ⑯ 定期試験 </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> ① ドレーピングの基礎・準備 ② タイトスカート(1) ③ タイトスカート(2)パターンドラフティング ④ タイトスカート(3)再組立て ⑤ フレアスカート(1) ⑥ フレアスカート(2)再組立て ⑦ ストレートスローパー(1) ⑧ ストレートスローパー(2)再組立て 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ タイトスローパー(1) ⑩ タイトスローパー(2)再組立て ⑪ ダーツ移動(1)折り紙 ⑫ ダーツ移動(2)バリエーション ⑬ 衿(1) ⑭ 衿(2) ⑮ 袖 ⑯ 定期試験
<ul style="list-style-type: none"> ① ドレーピングの基礎・準備 ② タイトスカート(1) ③ タイトスカート(2)パターンドラフティング ④ タイトスカート(3)再組立て ⑤ フレアスカート(1) ⑥ フレアスカート(2)再組立て ⑦ ストレートスローパー(1) ⑧ ストレートスローパー(2)再組立て 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ タイトスローパー(1) ⑩ タイトスローパー(2)再組立て ⑪ ダーツ移動(1)折り紙 ⑫ ダーツ移動(2)バリエーション ⑬ 衿(1) ⑭ 衿(2) ⑮ 袖 ⑯ 定期試験 						
評価方法	出席状況および受講態度20% 提出課題（パターン含む）60% 定期試験 20%						
履修条件	定規（60cm、30cm、三角、カープルーラー）、ピンクッション、シルクピン0.5×32mm（No.4）は、各自で準備						
教科書	プリント配布						
参考書							

生活デザイン学科（FD専修）

科目名	ドレーピングⅡ（応用）	配当年次 単位数	2年前期／演習 2単位（選択）	担当者	堀田 悦子		
授業概要	ドレーピングⅠで学んだ基礎をもとに、立体的見地と平面構成の理論を踏まえ、視覚で判断する力に磨きをかける。ドレーピングを繰り返し行い、パターンチェックをし、分析することで構造原理の理解が深まる。布目の読み取り、シルエットの構成、フォルム フィット感、バランス感覚を育みながら、デザインを表現できる技術を習得する。また、日本ファッション教育振興会パターンメイキング技術検定2級 3級取得に必要な技術を身に付ける。						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ① トップの切り替え ② ボトムの切り替え(1) ③ ボトムの切り替え(2) ④ ギャザー入りのブラウス(1) ⑤ ギャザー入りのブラウス(2)再組み立て ⑥ ウエストシェイプのブラウス(1) ⑦ ウエストシェイプのブラウス(2)再組立て ⑧ 凸凹のダーツ移動 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ⑨ テーラードカラー(1) ⑩ テーラードカラー(2)再組み立て ⑪ 袖の作図と袖付け ⑫ ドレス(1)身頃 ⑬ ドレス(2)スカート ⑭ ドレス(3)パターンドラフティング ⑮ ドレス(4)再組み立て ⑯ 定期試験 </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> ① トップの切り替え ② ボトムの切り替え(1) ③ ボトムの切り替え(2) ④ ギャザー入りのブラウス(1) ⑤ ギャザー入りのブラウス(2)再組み立て ⑥ ウエストシェイプのブラウス(1) ⑦ ウエストシェイプのブラウス(2)再組立て ⑧ 凸凹のダーツ移動 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ テーラードカラー(1) ⑩ テーラードカラー(2)再組み立て ⑪ 袖の作図と袖付け ⑫ ドレス(1)身頃 ⑬ ドレス(2)スカート ⑭ ドレス(3)パターンドラフティング ⑮ ドレス(4)再組み立て ⑯ 定期試験
<ul style="list-style-type: none"> ① トップの切り替え ② ボトムの切り替え(1) ③ ボトムの切り替え(2) ④ ギャザー入りのブラウス(1) ⑤ ギャザー入りのブラウス(2)再組み立て ⑥ ウエストシェイプのブラウス(1) ⑦ ウエストシェイプのブラウス(2)再組立て ⑧ 凸凹のダーツ移動 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ テーラードカラー(1) ⑩ テーラードカラー(2)再組み立て ⑪ 袖の作図と袖付け ⑫ ドレス(1)身頃 ⑬ ドレス(2)スカート ⑭ ドレス(3)パターンドラフティング ⑮ ドレス(4)再組み立て ⑯ 定期試験 						
評価方法	出席状況および受講態度20% 提出課題（パターン含む）60% 定期試験 20%						
履修条件	定規（50cm、30cm、三角、カーブルーラー）、ピンクッション、シルクピン0.5×32mm（No.4）は、各自で準備						
教科書	プリント配布						
参考書							

生活デザイン学科（FD専修）

科目名	材料管理学	配当年次 単位数	2年前期／講義 2単位（必修）	担当者	太田 幸一		
授業概要	<p>私達の身の周りの日常生活用品のほとんどは、使用することによる汚れの付着、洗浄、仕上げ、保管のくり返して利用され、汚損、変形、変色、脆化すると破棄される。各種材料が有する当初の良好な性能を長期間維持していくためには、材料の組成、性質を良く知って、適正な管理をしなければならない。</p> <p>私達の衣生活、住生活を飾る繊維製品を中心に、その適正な管理について科学的に学び、機能的、合理的な材料の利用方法を修得する。</p>						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ① 材料管理学とは／洗濯の絵表示 ② 衣服の汚れ ③ 洗濯用水と洗剤(1) 洗濯用水 ④ 洗濯用水と洗剤(2) 洗剤 ⑤ 洗濯機 ⑥ 汚れ除去のメカニズム ⑦ 洗浄力の試験法 ⑧ 家庭洗濯 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ⑨ 商業洗濯 ⑩ 漂白と増白 ⑪ 糊付けと仕上げ ⑫ しみ抜き ⑬ 衣服の保管 ⑭ 染色物の消費性能 ⑮ 染色のメカニズム ⑯ 試験（記述式、持ち込みは不可） </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> ① 材料管理学とは／洗濯の絵表示 ② 衣服の汚れ ③ 洗濯用水と洗剤(1) 洗濯用水 ④ 洗濯用水と洗剤(2) 洗剤 ⑤ 洗濯機 ⑥ 汚れ除去のメカニズム ⑦ 洗浄力の試験法 ⑧ 家庭洗濯 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 商業洗濯 ⑩ 漂白と増白 ⑪ 糊付けと仕上げ ⑫ しみ抜き ⑬ 衣服の保管 ⑭ 染色物の消費性能 ⑮ 染色のメカニズム ⑯ 試験（記述式、持ち込みは不可）
<ul style="list-style-type: none"> ① 材料管理学とは／洗濯の絵表示 ② 衣服の汚れ ③ 洗濯用水と洗剤(1) 洗濯用水 ④ 洗濯用水と洗剤(2) 洗剤 ⑤ 洗濯機 ⑥ 汚れ除去のメカニズム ⑦ 洗浄力の試験法 ⑧ 家庭洗濯 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 商業洗濯 ⑩ 漂白と増白 ⑪ 糊付けと仕上げ ⑫ しみ抜き ⑬ 衣服の保管 ⑭ 染色物の消費性能 ⑮ 染色のメカニズム ⑯ 試験（記述式、持ち込みは不可） 						
評価方法	出席状況・受講態度20%、期末試験80%で、総合判定する						
履修条件	なし						
教科書	建帛社「衣服管理の科学」						
参考書	日本衣料管理協会「衣服管理学」、相川書房「染色学」						

生活デザイン学科（FD専修）

科目名	テキスタイル素材演習	配当年次 単位数	2年前期／演習 2単位（必修）	担当者	太田 幸一
授業概要	生活材料学で学んだ内容を基礎にして、身近なテキスタイル素材（織物）の様々な基本的物理性能を、J I S（日本工業規格）に準じて測定する。さらに、その測定値を様々な角度から比較検討して考察し、測定された性能が衣生活の中でどのように生かされ、利用されているかを考える。繊維の種類やその特性、布の種類やその特性を知り、テキスタイル素材の合理的、機能的利用の指針を得るための実験的演習。				
授業計画	① 素材測定の手順説明と試料布の準備 ② 繊維の鑑別試験(1) 顕微鏡による鑑別 ③ 繊維の鑑別試験(2) 燃焼による鑑別 ④ 繊維の鑑別試験(3) 溶解による鑑別 ⑤ 繊維の鑑別試験(4) 呈色による鑑別 ⑥ 布の構成因子の測定(1) 重さ・厚さの測定 ⑦ 布の構成因子の測定(2) 糸密度測定・組織判別 ⑧ 工場見学（ジャカード織物工場）		⑨ 布の強度の測定(1) 引っ張り強度の測定 ⑩ 布の強度の測定(2) 引き裂き強度の測定 ⑪ 布の強度の測定(3) 破裂強度の測定 ⑫ 布の風合い性能の測定(1) 剛軟度の測定 ⑬ 布の風合い性能の測定(2) 防しむ性の測定 ⑭ 布の保健衛生的性能(1) 吸水性の測定 ⑮ 布の保健衛生的性能(2) 通気性の測定 ⑯ 総合レポートの作成		
評価方法	出席状況・授業態度を40%、各実験項目についてのレポート内容を60%の割合で総合評価する				
履修条件	生活材料学の内容を十分理解していることが望まれる				
教科書	テキスタイル素材演習の実験手順書を配布し使用する				
参考書	アイケイコーポレーション「改定生活材料学 ファッションとインテリア」				

生活デザイン学科（FD専修）

科目名	テキスタイル染色演習	配当年次 単位数	2年後期／演習 2単位（必修）	担当者	太田 幸一 柴田 佐和子
授業概要	我々の身近な繊維製品は、さまざまな染色加工技術により製造されている。また、日常行っている衣服の管理にも基本となる理論や適切な技術が応用されている。材料管理学ではこれらの基礎となる理論や技術を講義してきたが、本演習では、材料管理学の講義内容に基づいて、アパレル素材の染色・加工特性、堅牢度試験方法や界面活性剤の性質、洗剤の洗浄力などの演習を行う。この演習を通して、アパレル製品に必要とされる性能や被服管理に対する実践性の伴った知識として理解を深める。				
授業計画	① 概要と実験の手順説明 ② 染色実験(1) 細孔径と染料分子径との関係① ③ 染色実験(2) 細孔径と染料分子径との関係② ④ 染色実験(3) 結合の種類 ⑤ 染色実験(4) 結合の種類 ⑥ 染色実験(5) 結合の種類 ⑦ 染色堅ろう度試験(1)：耐光・汗堅ろう度 ⑧ 染色堅ろう度試験(2)：洗濯・摩擦堅ろう度		⑨ 界面活性剤の性質(1)：クラフト点と曇天 ⑩ 界面活性剤の性質(2)：可溶化力と乳化力 ⑪ 石鹼の作成と性質 ⑫ 石鹼と洗剤の洗浄性(1)：アルカリ剤の効果 ⑬ 石鹼と洗剤の洗浄性(2)：水軟化剤の効果 ⑭ 市販洗剤の洗浄性と添加剤の効果 ⑮ しみ抜き・漂白 ⑯ 総合レポートの作成		
評価方法	出席状況・授業態度を40%、各実験項目についてのレポート内容を60%の割合で総合評価する				
履修条件	材料管理学の内容を十分理解していることが望まれる				
教科書	テキスタイル染色演習の実験手順書を配布し使用する				
参考書	アイケイコーポレーション「改定生活材料学 ファッションとインテリア」				

生活デザイン学科（FD専修）

科目名	ファッションビジネス論	配当年次 単位数	1年前期／講義 2単位（必修）	担当者	中谷 友机子
授業概要	<p>ファッションビジネスは、消費者ライフスタイルのニーズやウォンツを素早く見極めて、魅力的・創造的・機能的・合理的な要素を付加して、さらに、魅力ある商品を製作し、消費者に提供する最先端のビジネスである。つまり、ファッション生活を楽しむ消費者のためのビジネスである。現在ファッションは「衣・食・住」などの広範囲に定義づけられているが、生活文化提案型産業の主流であるアパレルファッションを中心に基礎知識を習得する。ファッション産業とは何か。流通の特性は何か。ファッションビジネスの基礎知識を認識する。</p>				
授業計画	① ファッションビジネスについて ② ファッションビジネスの特性 ③ ファッション生活と消費 ④ ファッション産業構造－(1) ⑤ ファッション産業構造－(2) ⑥アパレル小売産業 ⑦ アパレル産業 ⑧ テキスタイル産業		⑨ ビジネス知識と計数管理 ⑩ ファッションマーケティング ⑪ ファッションマーチャンダイジング ⑫ファッション商品開発 ⑬ ファッション流通とプロモーション ⑭ ファッション商品知識とサイズ知識 ⑮ ファッション産業の職種と業務内容		
評価方法	受講態度20%、小テスト30%（検定試験対策のため時期は検定試験スケジュールに合わせる）、レポート50%				
履修条件	衣料管理士必修				
教科書	日本ファッション教育振興協会『ファッションビジネスⅡ』ファッションビジネス能力検定試験2級準拠、他はプリント配布				
参考書	文化ファッション大系『ファッションビジネス』、日本衣料管理協会『ファッションビジネスの世界』				

生活デザイン学科（FD専修）

科目名	ファッションマーケティング	配当年次 単位数	1年後期／演習 2単位（必修）	担当者	中谷 友机子
授業概要	<p>ファッション産業が多様化する現在において、ファッション企業（供給側）は消費者（需要側）に対して、より明確な商品戦略が重要となっている。つまり、消費者のニーズ（欲求）を徹底的に分析し、消費者が共感できる魅力的な商品をいかに提供できるかということである。市場調査や定点観測、ターゲットのマーケット動向の分析、ライフスタイル調査など、マーケティングのプロセスを習得し、さらに、ブランド戦略へ発展させる能力を身につける。基本マーケティング用語（小テストを実施）を理解し、学生各自のマーケティング企画書を作成する。 （※学外セミナーの日程により授業計画が移動する場合がある）</p>				
授業計画	① ファッションマーケティングの重要性 ② アイテム知識 ③ シーズンサイクル（ワードローブチェックリスト） ④ マーケット動向 雑誌ポジショニング分析 ⑤ ファッションタイプ、マインドエイジ、感性分析 ⑥ 学外セミナー ⑦ 競合店調査（1） ⑧ 競合店調査（1）		⑨ 次シーズントレンド情報分析・感性（グループ） ⑩ 次シーズントレンド情報分析・カラー・素材 ⑪ 次シーズントレンド情報分析・シルエット・まとめ ⑫ ⑨⑩⑪を踏まえて、次シーズンブランド企画予測 ⑬ コンセプト・ターゲット・企画構成 ⑭ アイテム企画・コーディネート・プロモーション ⑮ プレゼンテーション		
評価方法	受講態度20%、小テストとレポート30%、提出課題（企画書）50%				
履修条件	衣料管理士必修。前期「ファッションビジネス論」、後期「情報処理Ⅱ」を履修していることが望ましい。				
教科書	菅原正博・本山光子『ファッションマーケティング』ファッション教育社、プリント配布				
参考書	文化ファッション大系 流通①『ファッションビジネス流通編基礎』文化出版局				

生活デザイン学科（FD専修）

科目名	アパレルマーチャンダイジング	配当年次 単位数	2年前期／演習 2単位（必修）	担当者	中谷 友机子
授業概要	アパレルにおける情報収集や分析（マーケティング）から具体的な商品企画（マーチャンダイジング）、さらに、販売促進（プロモーション）など、一貫的な商品化プロセスを学生各自の演習をとおして理解する。商品企画においての重要なコンセプト（概念）を把握し、明確なターゲットによる商品企画提案、また、アイテム（品目）・カラー・スタイル・コーディネートなどの構成、さらに、販売計画まで含めたブランド戦略を習得する。アパレルファッションのオリジナルブランドマップ作成とプレゼンテーション力を身につける。 (※学外セミナーの日程により授業計画が移動することがある)				
授業計画	① アパレルマーチャンダイジングと情報収集 ② トレンド分析と立案 ③ 商品コンセプトとターゲット ④ 学外セミナー（トレンドセミナー） ⑤ 価格設定 ⑥ シーズンコンセプト ⑦ コーディネート企画 ⑧ セールスプロモーション	⑨ 月別ストーリーテーマ企画構成 ⑩ 月別企画細分化構成 ⑪ 月別企画細分化アイテム構成 ⑫ 原価計算 ⑬ 販売計画 ⑭ 月別売り場計画 ⑮ プレゼンテーション			
評価方法	受講態度20%、提出課題（オリジナルブランドマップ作成）50%、プレゼンテーション力30%				
履修条件	衣料管理士必修。一年後期「ファッションマーケティング」「情報処理Ⅱ」を履修しているのが望ましい。				
教科書	菅原正博・本山光子『ファッションマーケティング』ファッション教育社、コレクションなどの雑誌（MAP用資料）				
参考書	文化ファッション大系『服飾デザイン』文化出版局、菅原正博『アパレル・マーチャンダイジング』ファッション教育社				

生活デザイン学科（FD専修）

科目名	ファッション販売論	配当年次 単位数	2年後期／講義 2単位（選択）	担当者	中谷 友机子
授業概要	ファッション産業の発展とともに、ファッション販売の業態や職種も大きく進化していった。現在、個性化や多様化するファッションビジネスにおいて、ファッション販売は、高度な知識や技術を必要とされる、評価の高い専門職である。つまり、プロフェッショナルな職種として重要な役割を果たしている。ファッション販売の専門的な基礎知識・技術・役割などを修得し、さらに、販売促進のプロセスや店舗運営に関する計数など、必要なスキルを認識する。講義中心だが、一部プロモーション立案の演習やロール・プレイングも取り入れ、認識を深めていく。				
授業計画	① ファッション販売とは ② ファッション小売業の変遷 ③ ファッション小売業の組織と職務 ④ ファッション小売業の経営戦略 ⑤ リテールマーケティングとマーチャンダイジング ⑥ VMD・VP・PP・IP ゾーニング ⑦ ファッション販売の仕組み ⑧ 販売スタッフの役割	⑨ 課題(1)各自選択した会社の経営研究発表 ⑩ 店舗運営に関する計数 ⑪ 販売業務－(1) ⑫ 販売業務－(2) ⑬ インストアとプレストアのプロモーション ⑭ プロモーション立案 ⑮ プレゼンテーションと小売業の課題と展望			
評価方法	授業態度20%、レポート40%、プレゼンテーション（プロモーション立案）40%				
履修条件	「ファッションマーケティング」「情報処理Ⅱ」「アパレルマーチャンダイジング」を履修していることが望ましい。				
教科書	日本衣料管理協会『ファッション販売論』				
参考書	日本ファッション教育振興協会『ファッション販売Ⅱ』、本山光子『FASHION STYLE PLANNING』ファッション教育社				

生活デザイン学科（FD専修）

科目名	服飾文化史	配当年次 単位数	1年前期／講義 2単位（選択）	担当者	柴田 佐和子
授業概要	西洋服飾文化を中心に、衣服の起源から人類の進化と共に変化してきた衣服の歴史をたどり、今日のファッションが形成されるまでの変遷を把握することを目的とする。各時代の生活様式や社会的背景をふまえつつ、衣服がどのように変化していくかを学ぶ。また、過去の服飾文化・デザインを知ることで、新しい創造やデザイン発想を生み出すための知識を深める。				
授業計画	① 服飾史を学ぶ意義、服飾の起源・服飾の基本形 ② 古代：オリエント、ギリシャ、ローマ ③ 中世：ビザンチン～ロマネスク、ゴシック ④ 近世：ルネッサンス ⑤ 近世：バロック ⑥ 近世：ロココ ⑦ 近世：エンパイア、ロマンチック、クリノリン ⑧ 19世紀末：アールヌーボー、バウハウス	⑨ 20年代：アールデコ、ジャポニズム、ギャルソンヌ ⑩ 30～40年代：スリム&ロング、メディアの発達 ⑪ 50年代：ニュールック～オートクチュールの興隆 ⑫ 60年代：オートクチュールからプレタポルテへ ⑬ 70年代：若者文化とストリートファッション ⑭ 80年代：女性の社会進出とパワースーチング ⑮ 90年代：グランジ、ミニマリズム～グローバル化 ⑯ 試験			
評価方法	出席状況・授業態度20%、小テスト・課題提出20%、定期試験60%				
履修条件	特になし				
教科書	文化出版局 文化ファッション大系 服飾関連専門講座①「改訂版・西洋服装史」				
参考書	美術出版社 深井晃子監修「世界服飾史」				

生活デザイン学科（FD専修）

科目名	消費科学	配当年次 単位数	2年後期／講義 2単位（必修）	担当者	太田 幸一
授業概要	消費科学は、日常生活に関するモノとサービスの生産、流通、消費について、その実態を明らかにするとともに、これらを生活の豊かさに結びつけることを考える科学である。身の回りにあふれる様々な日常生活製品の品質やその管理に関することや、消費者行動について詳しく知ることは、モノを生産する立場からも、消費する立場からも大変重要なことである。この講義では日常生活の中で特に繊維製品の消費科学について、消費者保護の観点から解説する。				
授業計画	① 消費科学の定義 ② 繊維製品の品質、品質設計と品質管理 ③ 品質の評価と品質保証 ④ 品質表示と安全性 ⑤ 消費者苦情とその原因 ⑥ 消費者苦情の実態 ⑦ 消費者苦情の活用 ⑧ 消費者行動の特徴と要因	⑨ 消費者調査の特徴と種類 ⑩ 消費者調査の実態 ⑪ 繊維製品の生産 ⑫ 繊維製品の流通 ⑬ 繊維製品の消費 ⑭ 地球環境と繊維製品 ⑮ 消費者問題の最新動向 ⑯ 試験（記述式、持ち込みは不可）			
評価方法	出席状況・受講態度20%、期末試験80%で、総合判定する				
履修条件	なし				
教科書	日本衣料管理協会「衣生活のための消費科学」				
参考書	日本衣料管理協会「消費生活論」、日本衣料管理協会「ファッション商品論」				

生活デザイン学科（ID専修）

科目名	建築・インテリア基礎製図	配当年次 単位数	1年前期／演習 2単位（必修）	担当者	加藤 祥子
授業概要	<p>建築分野では、自ら設計した平面や空間イメージを他者に伝えるため、平面図形や立体図形を正確に図示できることが重要である。本演習では、建築・インテリア設計演習Ⅰ、ⅡおよびⅢを履修する上で必要な製図法の基本知識を理解し、図面模写等を通じてその技術を修得することを目的とする。</p> <p>本演習では、建築物の平面図、立面図、断面図および矩計図に関する講義と演習、名建築の模型制作を行う。併せて模型写真によるプレゼンテーションも演習する。</p>				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 製図の基本、文字の練習 ② 線の練習 ③ 木造建築の図面模写(1)配置図 ④ 木造建築の図面模写(2)平面図(1) ⑤ 木造建築の図面模写(3)平面図(2) ⑥ 木造建築の図面模写(4)立面図・断面図 ⑦ 木造建築の図面模写(5)矩計図(1) ⑧ 木造建築の図面模写(6)矩計図(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 名建築の図面模写(1) ⑩ 名建築の図面模写(2) ⑪ 名建築の図面模写(3) ⑫ 名建築の模型制作(1) ⑬ 名建築の模型制作(2) ⑭ 名建築の模型制作(3) ⑮ 名建築の模型制作(4)模型写真撮影とプレゼン ⑯ 作品提出 			
評価方法	出席状況・授業態度20%、提出課題80%				
履修条件	制作に必要な材料費等は各自で負担				
教科書	学芸出版社「新しい建築の製図」 新しい建築の製図編集委員会編				
参考書	彰国社「イラストでわかる建築模型のつくり方」 大脇 賢次著				

生活デザイン学科（ID専修）

科目名	住生活論	配当年次 単位数	2年前期／講義 2単位（必修）	担当者	臼井 直之
授業概要	<p>生活の拠点となる住まいは、様々な気候、文化、あるいは社会的背景の上に成立する。建築家はそれを深く理解した上で、豊かな空間を作り上げる。</p> <p>本講義では、住生活の背景にある事柄と住まいとの関わりについて学ぶ。また、ひとりの建築家を取り上げ、住生活をどのように捉えて建築を設計してきたのかを考える。それらを通し、住まいに対する確かな思想を持った豊かな住空間を実現するための、実践的な考え方を身につける。</p>				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 多様性 ② 生活とデザイン ③ 住まいの歴史（日本） ④ 住まいの歴史（西洋） ⑤ 建築家の実践(1) ⑥ 建築家の実践(2) ⑦ 見学 ⑧ 建築家の実践(3) 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 建築家の実践(4) ⑩ 住まいの変遷 ⑪ 住まいとまち ⑫ 住まいとライフスタイル ⑬ 見学 ⑭ 建築家の実践(5) ⑮ 建築家の実践(6) ⑯ 定期試験 			
評価方法	出席状況・授業態度30%、定期試験70%				
履修条件					
教科書	宮脇檀の住宅設計テキスト（丸善出版）				
参考書					

生活デザイン学科（ID専修）

科目名	建築法規	配当年次 単位数	2年前期／講義 2単位（必修）	担当者	伊藤 篤志		
授業概要	<p>建築基準法は、国民の生命、健康および財産の保護を図り、公共の福祉の増進に資することを目的とし、建築物と敷地の関係および建築物の用途、構造、設備に関する最低の基準を定めている。</p> <p>本講義では、その法律の果たす役割を理解し、安全で住みよいまちづくりのために、建築物がどうあるべきかを考えながら、建築基準法および建築関係法令を学習する。</p>						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ① 法令の体系、建築基準法の歴史 ② 法文の読み方、建築基準法の改正 ③ 総則（用語の定義） ④ 総則（面積の算定、高さの算定、確認申請の手続き） ⑤ 単体規定（構造と規模、防火区画） ⑥ 単体規定（特殊建築物、居室の採光、換気） ⑦ 単体規定（廊下、避難階段、排煙設備） ⑧ 単体規定（非常用照明、敷地内通路、内装制限） </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ⑨ 集団規定（道路、用途地域の制限） ⑩ 集団規定（建ぺい率、容積率） ⑪ 集団規定（高さ制限） ⑫ 集団規定（防火、準防火地域） ⑬ 単体規定（構造強度） ⑭ 問題演習(1) ⑮ 問題演習(2) ⑯ 試験（教科書、ノートの持込み可） </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> ① 法令の体系、建築基準法の歴史 ② 法文の読み方、建築基準法の改正 ③ 総則（用語の定義） ④ 総則（面積の算定、高さの算定、確認申請の手続き） ⑤ 単体規定（構造と規模、防火区画） ⑥ 単体規定（特殊建築物、居室の採光、換気） ⑦ 単体規定（廊下、避難階段、排煙設備） ⑧ 単体規定（非常用照明、敷地内通路、内装制限） 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 集団規定（道路、用途地域の制限） ⑩ 集団規定（建ぺい率、容積率） ⑪ 集団規定（高さ制限） ⑫ 集団規定（防火、準防火地域） ⑬ 単体規定（構造強度） ⑭ 問題演習(1) ⑮ 問題演習(2) ⑯ 試験（教科書、ノートの持込み可）
<ul style="list-style-type: none"> ① 法令の体系、建築基準法の歴史 ② 法文の読み方、建築基準法の改正 ③ 総則（用語の定義） ④ 総則（面積の算定、高さの算定、確認申請の手続き） ⑤ 単体規定（構造と規模、防火区画） ⑥ 単体規定（特殊建築物、居室の採光、換気） ⑦ 単体規定（廊下、避難階段、排煙設備） ⑧ 単体規定（非常用照明、敷地内通路、内装制限） 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 集団規定（道路、用途地域の制限） ⑩ 集団規定（建ぺい率、容積率） ⑪ 集団規定（高さ制限） ⑫ 集団規定（防火、準防火地域） ⑬ 単体規定（構造強度） ⑭ 問題演習(1) ⑮ 問題演習(2) ⑯ 試験（教科書、ノートの持込み可） 						
評価方法	授業出席および授業態度 30%、定期試験 70%						
履修条件	無し						
教科書	わかりやすい「建築法規の知識」改定3版（オーム社）						
参考書	基本建築関係法令集（建築資料研究社）						

生活デザイン学科（ID専修）

科目名	一般構造	配当年次 単位数	1年後期／講義 2単位（必修）	担当者	服部 宏己		
授業概要	<p>本講義は、建築物の骨組みとなる建築構造に関する基礎的な知識を施工等を含めた幅広い見地から理解することを目的とする。建築物の全般を知るには、その骨組みや仕上げの構造を理解することが重要であり、また、建築材料の特性を知ることによって、より深く理解することが可能となる。本講義では、建築材料の特性に加えその施工法も組入れることにより、建築物に関するより幅広い知識を習得する。なお、構造分野で用いられる独特な用語・名称は、理解し易いよう極力図を用いて講義を行う。</p>						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ① 建築物と地盤・基礎構造 ② 木構造 ③ 鉄筋コンクリート構造(1) ④ 鉄筋コンクリート構造(2) ⑤ 実地見学 ⑥ 壁式鉄筋コンクリート構造 ⑦ 鉄骨構造(1) ⑧ 鉄骨構造(2) </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ⑨ 鉄骨鉄筋コンクリート構造 ⑩ 組積造・補強コンクリートブロック造 ⑪ 屋根 ⑫ 階段・天井 ⑬ 壁体仕上 ⑭ 床仕上 ⑮ 開口部・建具 ⑯ 定期試験 </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> ① 建築物と地盤・基礎構造 ② 木構造 ③ 鉄筋コンクリート構造(1) ④ 鉄筋コンクリート構造(2) ⑤ 実地見学 ⑥ 壁式鉄筋コンクリート構造 ⑦ 鉄骨構造(1) ⑧ 鉄骨構造(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 鉄骨鉄筋コンクリート構造 ⑩ 組積造・補強コンクリートブロック造 ⑪ 屋根 ⑫ 階段・天井 ⑬ 壁体仕上 ⑭ 床仕上 ⑮ 開口部・建具 ⑯ 定期試験
<ul style="list-style-type: none"> ① 建築物と地盤・基礎構造 ② 木構造 ③ 鉄筋コンクリート構造(1) ④ 鉄筋コンクリート構造(2) ⑤ 実地見学 ⑥ 壁式鉄筋コンクリート構造 ⑦ 鉄骨構造(1) ⑧ 鉄骨構造(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 鉄骨鉄筋コンクリート構造 ⑩ 組積造・補強コンクリートブロック造 ⑪ 屋根 ⑫ 階段・天井 ⑬ 壁体仕上 ⑭ 床仕上 ⑮ 開口部・建具 ⑯ 定期試験 						
評価方法	出席状況・授業態度20%、定期試験80%						
履修条件	なし						
教科書	共立出版株式会社 江上外人・林静雄著 「分り易く図で学ぶ建築一般構造 第2版」						
参考書	丸善出版 日本建築学会編 「構造用教材 改訂第3版」						

生活デザイン学科（ID専修）

科目名	構造力学	配当年次 単位数	1年後期／講義 2単位（必修）	担当者	服部 宏己
授業概要	<p>本講義は、建築構造物の安全性を確保するための基本となる構造力学について、その基礎知識を習得することを目的とする。建築構造物の安全性は構造設計により確認されるが、構造力学は、その数値的根拠のベースとなり建築分野において非常に重要な学問である。本講義では、建築構造の概念、実務で扱われる構造設計の概要を理解し、次いで、構造力学の考え方の基礎を学ぶ。なお、本講義においては、極力分かりやすくするため、概念的な図を多用し、構造力学の本質的な意味の理解を深めることを念頭に置く。</p>				
授業計画	① 建築構造とは ② 構造設計法の概要 ③ 力とモーメント ④ 力の合成と分解 ⑤ 力のつりあいと力のつりあい式 ⑥ 静定構造物 ⑦ 断面力の算定 ⑧ 同上	⑨ 断面力の算定 ⑩ 静定トラス構造物 ⑪ 同上 ⑫ 断面の応力度および断面の性質 ⑬ 梁のたわみ ⑭ 固定モーメント法（不静定） ⑮ 同上 ⑯ 定期試験			
評価方法	出席状況・授業態度20%、定期試験80%				
履修条件	なし				
教科書	市ヶ谷出版社 元結正次郎・大塚貴弘著 「初学者の建築講座 建築構造力学（新版）」				
参考書	なし				

生活デザイン学科（ID専修）

科目名	施工と生産システム演習	配当年次 単位数	2年前期／演習 2単位（必修）	担当者	梅田 正人
授業概要	<p>建築物の生産システムのしくみとそれを取り巻く社会とのかかわりを知り、建築物の着工から完成にいたる施工管理の基本的な技術を学ぶ。</p> <p>建築施工の目的と役割及びその社会的責任や安全性について、建築基準法や労働安全衛生法など法を理解するとともに、建築物生産のありかたやものづくりの大切さを学び、社会に役立つ知識を習得する。</p>				
授業計画	① オリエンテーション、建築物ができるまで ② 建築生産概論 ③ 現場研修(1)－完成した建築物 ④ 施工者の決定と請負契約 ⑤ 施工計画と施工管理 ⑥ 仮設と機械 ⑦ 地下工事 ⑧ 躯体工事(1)－鉄筋、型枠について	⑨ 躯体工事(2)－コンクリート、鉄骨について ⑩ 現場研修(2)－躯体工事の現場研修 ⑪ 仕上工事(1)－C B、防水、石、タイル、木 ⑫ 仕上工事(2)－屋根、左官、ガラス、塗装、内装工事 ⑬ 現場研修(3)－仕上工事の現場研修 ⑭ 改修工事、解体工事 ⑮ 安全と環境、積算と見積り ⑯ 期末試験－理解度確認			
評価方法	出席状況・授業態度30%、小テスト10%、期末試験60%				
履修条件	現場研修に必要な旅費、用品は各自用意する。				
教科書	オーム社発行 建築生産 第1版				
参考書	なし				

生活デザイン学科（ID専修）

科目名	建築環境学	配当年次 単位数	1年後期／講義 2単位（必修）	担当者	加藤 祥子
授業概要	<p>建築環境学の目的は、望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、建築計画に役立てることである。最近では、建築が都市や地球環境に及ぼす影響が注目され、ヒートアイランド現象や地球温暖化の対策としての建築のあり方にも大きな関心が持たれている。本講義では、環境要素である光、熱、空気、音に関して解説し、建築物によってどのように室内環境が形成されるかを学び、人や環境にとって望ましい室内環境を形成する建築物のあり方について考える。</p>				
授業計画	<p>① 建築環境学の概要、環境の要素 ② 光環境(1)照明 ③ 光環境(2)色彩 ④ 温熱環境(1)熱移動と断熱 ⑤ 温熱環境(2)湿度と結露 ⑥ 温熱環境(3)体感温度 ⑦ 温熱環境(4)太陽と日射 ⑧ 空気環境(1)空気汚染物質と換気</p>		<p>⑨ 空気環境(2)自然換気 ⑩ 空気環境(3)機械換気 ⑪ 空気環境(4)換気計画、通風 ⑫ 音環境(1)音の性質 ⑬ 音環境(2)吸音・遮音・音響 ⑭ 音環境(3)騒音と振動 ⑮ 地球環境 ⑯ 定期試験</p>		
評価方法	出席状況・授業態度・提出物・小テスト30％，定期試験70％				
履修条件	なし				
教科書	学芸出版社「図説 やさしい建築環境」 辻原万規彦監修，今村仁美・田中美都著				
参考書	適宜，資料を配布				

生活デザイン学科（ID専修）

科目名	建築設備学	配当年次 単位数	1年後期／講義 2単位（必修）	担当者	加藤 祥子
授業概要	<p>建築設備とは、建築物に設ける給排水設備や冷暖房設備、換気設備、電気設備などを指し、現代の建築物にとって不可欠なものである。建築設備は、人々の利便性・快適性の追求の中で生まれ、近現代に休息に発展・普及した。一方、この発展の過程は、エネルギー使用の増大と地球・都市の環境悪化の過程でもあり、環境保全に配慮した技術が求められている。建築設備が果たす役割を把握し、快適な室内環境を実現するための建築デザインのあり方を考える。</p>				
授業計画	<p>① 建築設備学の概要、環境とエネルギー ② 給排水設備(1)給水設備 ③ 給排水設備(2)給湯設備 ④ 給排水設備(3)排水・通気設備 ⑤ 給排水設備(4)衛生器具設備 ⑥ 給排水設備(5)ガス設備 ⑦ 空気調和設備(1)空気調和 ⑧ 空気調和設備(2)空気調和システム</p>		<p>⑨ 空気調和設備(3)熱源方式 ⑩ 空気調和設備(4)空気調和装置 ⑪ 空気調和設備(5)省エネルギー ⑫ 電気設備(1)受変電設備 ⑬ 電気設備(2)照明設備、情報通信設備 ⑭ 搬送設備 ⑮ 防災設備 ⑯ 定期試験</p>		
評価方法	出席状況・授業態度・提出物30％，定期試験70％				
履修条件	なし				
教科書	学芸出版社「図説 建築設備」 村川三郎監修，芳村恵司・宇野朋子編著				
参考書	適宜，資料を配布				

生活デザイン学科（ID専修）

科目名	建築・インテリア設計演習Ⅰ	配当年次 単位数	1年後期/演習 2単位（必修）	担当者	佐藤 仁 臼井 直之
授業概要	<p>はじめての建築設計を行うにあたって、敷地の見方、情報の集め方、敷地模型の作り方、設計の方法を、段階的に楽しく身につけます。課題1では、自分が経営するオフィスが入る「まちビル」の設計、課題2では、理想の生活スタイルを実現する「住宅」の設計をします。単に人が入れる大きさの箱を作るのではなく、どのように使われる建築が必要で、なぜその形をしているのかを説明する力を養います。さらに課題3では、2年生と共に短期課題に取り組む事で、他人と意見を交わしながら設計することの楽しさと難しさを学びます。</p>				
授業計画	<p>課題1 まちビル</p> <p>① 課題説明および、敷地見学</p> <p>② 敷地模型づくり</p> <p>③ ボリュームスタディ</p> <p>④ 中間発表・機能を考える</p> <p>⑤ 空間の囲み方、支え方を考える</p> <p>⑥ 開口部のスタディ</p> <p>⑦ プレゼンテーション</p> <p>⑧ 講評会</p>	<p>課題2 住宅</p> <p>⑨ 課題説明および、敷地見学 敷地模型づくり</p> <p>⑩ ボリュームスタディ</p> <p>⑪ 中間発表</p> <p>⑫ 機能を考える・エスキスチェック</p> <p>⑬ 開口部のスタディ</p> <p>⑭ 講評会</p> <p>課題3 短期課題（身近な街への具体的な提案）</p> <p>⑮ 課題3（2年生と合同）</p>			
評価方法	出席状況・受講態度20%、課題80%				
履修条件	建築・インテリア基礎製図を受講していることが望ましい				
教科書	コンパクト建築設計資料集成（日本建築学会編）、初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ（彰国社）				
参考書					

生活デザイン学科（ID専修）

科目名	建築・インテリア設計演習Ⅱ	配当年次 単位数	2年前期/演習 2単位（必修）	担当者	畑中 久美子 佐藤 仁・臼井 直之
授業概要	<p>本演習では、設計演習Ⅰで学んだ設計手法を基に、「みんな」のための建物の計画を行います。課題1は、本学の敷地内に、市民に解放された図書館を構想し、設計をします。課題2では、岐阜の中心部である、市役所南庁舎が建つ敷地の特性を読み取り、こども子育て支援センターを計画します。少しずつ規模の大きな建築に挑戦しましょう。</p>				
授業計画	<p>課題1 岐阜市立図書館 島分館</p> <p>① 課題説明および、敷地見学 敷地模型づくり</p> <p>② ボリュームスタディ</p> <p>③ 中間講評</p> <p>④ 機能を考える</p> <p>⑤ 空間の囲み方・支え方を考える、細部を考える</p> <p>⑥ プレゼンテーション</p> <p>⑦ 講評会</p>	<p>課題2 こども・子育て支援センター</p> <p>⑧ 課題説明および、敷地見学 敷地模型づくり</p> <p>⑨ ボリュームスタディ</p> <p>⑩ 中間講評</p> <p>⑪ 機能を考える</p> <p>⑫ 空間の囲み方・支え方を考える</p> <p>⑬ 細部を考える</p> <p>⑭ プレゼンテーション</p> <p>⑮ 講評会</p>			
評価方法	出席状況・受講態度20%、課題80%				
履修条件	建築・インテリア設計演習Ⅰを受講していることが望ましい				
教科書	コンパクト建築設計資料集成（日本建築学会編）、初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ（彰国社）				
参考書					

生活デザイン学科（ID専修）

科目名	建築・インテリア設計演習Ⅲ	配当年次 単位数	2年後期／演習 2単位（選択）	担当者	庵原 義隆
授業概要	<p>本演習は設計演習の総仕上げとして、自由に課題を設定することから、リサーチ、設計、プレゼンテーションまでを、時間をかけて行うものである。設計演習Ⅰ・Ⅱで学んだ設計の手法を更に発展させ、より社会と結びついた建物・家具・インテリアの設計方法を習得する。</p> <p>また、講義の最後の3回では、身近な街への具体的な提案を考えることで、設計の力が社会を変える可能性を持つことを体感する。</p>				
授業計画	<p>課題1 自由設計</p> <p>① ガイダンス「自由設計とは」</p> <p>② 自分らしいテーマをつくる</p> <p>③ リサーチ(1) (好きな空間を見つける)</p> <p>④ リサーチ(2) (大きさ・規模を考える)</p> <p>⑤ リサーチ(3) (過去の自由設計を知る)</p> <p>⑥ 設計(1) (活動・体験を考える)</p> <p>⑦ 設計(2) (豊かな空間を創造する)</p> <p>⑧ 設計(3) (気持ちの良い環境について考える)</p>	<p>⑨ テーマから設計までをひとつながりにする</p> <p>⑩ プレゼンテーション作成(1) (模型、写真)</p> <p>⑪ プレゼンテーション作成(2) (図面、レイアウト)</p> <p>⑫ 講評会</p> <p>課題2 短期課題 (身近な街への具体的な提案)</p> <p>⑬ 敷地見学・リサーチ・ディスカッション</p> <p>⑭ エスキス</p> <p>⑮ 講評会 (1年生と合同)</p>			
評価方法	出席状況・受講態度60%、課題40%				
履修条件	—				
教科書	—				
参考書	日本建築学会編『コンパクト建築設計資料集成』				

生活デザイン学科（ID専修）

科目名	空間デザイン演習	配当年次 単位数	2年前期／演習 2単位（選択）	担当者	畑中 久美子 大木 壮太
授業概要	<p>空間デザイン演習では、CADで製図したデータや、撮影した画像を用いて、建築やインテリア設計のプレゼンテーションに必要な方法を、Adobeのフォトショップおよび、イラストレーターを使用しながら習得する。</p> <p>前半で今までの作品をまとめたポートフォリオの作成、さらに教科書を用いて基礎的なテクニックを習得する。そして建築・インテリア設計演習Ⅱと連動しながら、設計中の建物のプレゼンテーションを実践的に行う。</p>				
授業計画	<p>① ガイダンス (空間デザイン演習の方法)</p> <p>② ポートフォリオの講評会</p> <p>③ ポートフォリオの修正</p> <p>④ 図面に使えるテクニック</p> <p>⑤ 図面に使えるテクニック</p> <p>⑥ 課題1のプレゼンテーション</p> <p>⑦ 課題1のプレゼンテーション</p> <p>⑧ 講評会</p>	<p>⑨ 建築写真に使えるテクニック</p> <p>⑩ 日本建築学会全国大学・高専卒業設計展示会の作品からプレゼンテーションを学ぶ</p> <p>⑪ 建築パースに使えるテクニック</p> <p>⑫ プレゼンテーションに使えるテクニック</p> <p>⑬ 課題2のプレゼンテーション</p> <p>⑭ 課題2のプレゼンテーション</p> <p>⑮ 講評会</p>			
評価方法	出席状況・授業態度30%、課題70%。				
履修条件	建築・インテリアCAD演習を履修していること。設計演習Ⅱを履修していること。				
教科書	<p>建築プレゼンのグラフィックデザイン (鹿島出版会)</p> <p>建築とインテリアのためのPhotoshop+Illustrator テクニック CC/CS6/CS5/CS4/CS3 対応 (エクスナレッジムック)</p>				
参考書	適宜、資料を配布する。				

生活デザイン学科（ID専修）

科目名	建築計画論	配当年次 単位数	1年前期／講義 2単位（必修）	担当者	臼井 直之
授業概要	<p>世の中にはさまざまな建築がある。建築計画はそれらを体系的に捉え、設計する際の思考の助けとなるものである。建築を設計する際の考え方や用途ごとの特徴を学ぶ事は、単に知識が増えるだけではなく、身近にある建築空間に対して、新たな発見をもたらす。</p> <p>本講義では、建築に携わる上で必要となる基本的な概念・知識を、実例と結びつけながら学んでゆく。</p>				
授業計画	① 概要 ② 建築する背景 ③ 寸法 ④ 健康と安全 ⑤ 空間と知覚 ⑥ 利用と規模 ⑦ 動線 ⑧ 環境共生とライフサイクル		⑨ 住まい(1)独立住宅 ⑩ 住まい(2)集合住宅 ⑪ 公共空間(1)学校 ⑫ 公共空間(2)図書館 ⑬ 公共空間(3)美術館 ⑭ 公共空間(4)劇場 ⑮ 公共空間(5)事務所 ⑯ 定期試験		
評価方法	出席状況・授業態度30%、定期試験70%				
履修条件					
教科書	理工図書 「改訂版 建築計画を学ぶ」 建築計画教材研究会 編				
参考書					

生活デザイン学科（ID専修）

科目名	測量実習	配当年次 単位数	2年後期／実習 2単位（必修）	担当者	今井 正樹
授業概要	<p>デザイン設計に必要な測量理論と、実習による基本的測量技術を習得する。</p>				
授業計画	① 測量の概要、小テスト ② 距離測量 ③ 距離測量 ④ トラバース測量 ⑤ 現場見学 ⑥ トラバース測量、水準測量 ⑦ トラバース測量、水準測量 ⑧ トラバース測量、水準測量		⑨ 実技試験 ⑩ 水準測量 ⑪ 水準測量 ⑫ 実技試験 ⑬ 平板測量、トラバース測量 ⑭ 平板測量、トラバース測量 ⑮ 平板測量、試験、レポート ※講義内容、試験日程は変更する場合があります。		
評価方法	出席状況・実習態度40%、実習課題(提出図面)30%、試験(小テスト・実技試験・レポート)30%				
履修条件	なし				
教科書	「新版 測量学(上)」(丸安 隆和 コロナ社)				
参考書	適時配布				

生活デザイン学科（ID専修）

科目名	建築・インテリアCAD演習	配当年次 単位数	1年後期／演習 2単位（選択）	担当者	服部 宏己
授業概要	<p>本講義は、CADの基本的な知識・技術を習得することを目的とする。この演習では、CADの概要を理解し、実務において汎用的に使用されている二次元CADソフト：JW_CADを用いて、その基本操作を学習する。また、一般的な木造の戸建住宅を作図することにより、実務に対応したCADの製図技法および建築製図の表現方法を習得するとともに、建築図面を通して立体的な観念を身につける。</p>				
授業計画	① CADの概要 ② 基本操作1（Lesson1） ③ 基本操作2（Lesson2） ④ 基本操作3（Lesson3） ⑤ 基本操作まとめ ⑥ RC造集合住宅：住戸平面図 ⑦ RC造集合住宅：住戸平面図（部屋名・寸法） ⑧ 住戸平面図まとめ・中間試験		⑨ RC造集合住宅：基準階平面図 ⑩ RC造集合住宅：立面図 ⑪ RC造集合住宅：2.5D図 ⑫ 図面の合成と印刷 ⑬ 演習課題（RC造集合住宅：断面図）基準 ⑭ 演習課題（RC造集合住宅：断面図）躯体 ⑮ 演習課題（RC造集合住宅：断面図）仕上		
評価方法	出席状況・授業態度20%、中間試験・演習課題80%				
履修条件	なし				
教科書	エクснаレッジ 清水治郎・田中善文著 「Jw_cad徹底解説 操作解説編 2012-2013」				
参考書	なし				

生活デザイン学科（ID専修）

科目名	建築材料学	配当年次 単位数	1年前期／講義 2単位（必修）	担当者	服部 宏己
授業概要	<p>本講義は、建築物で扱われている建築材料の種類や性質・機能性について、その基礎知識を体系的に理解することを目的とする。建築材料は、安全で機能的でありかつ意匠的にも優れた建築空間を創り出すために、様々な材料と部材が組み合わされている。これらの建築材料を選定するには、その物理的・化学的特性に加え、規格・寸法などの知識が必要となる。本講義では、建築材料の実物や現実的な図を多用することによりその理解を深める。</p>				
授業計画	① 建築材料概論 ② 建築構成部位と材料 ③ コンクリート材料(1)（概要） ④ コンクリート材料(2)（硬化コンクリート） ⑤ コンクリート材料(3)（フレッシュコンクリート） ⑥ 鉄鋼材料(1)（概要） ⑦ 鉄鋼材料(2)（基本物性） ⑧ 木質材料(1)（概要）		⑨ 木質材料(2)（力学的性質） ⑩ その他の構造材料 ⑪ 仕上材料(1)（木質・金属・セメント系材料） ⑫ 仕上材料(2)（石材・セラミック系・高分子材料） ⑬ 機能性材料(1)（塗材・防水材料） ⑭ 機能性材料(2)（防火・耐火・断熱材料） ⑮ 新しい建築材料 ⑯ 定期試験		
評価方法	出席状況・授業態度20%、定期試験80%				
履修条件	なし				
教科書	共立出版 三橋博三・大濱嘉彦・小野英哲編集 「建築材料学」				
参考書	なし				

生活デザイン学科（ID専修）

科目名	西洋建築史	配当年次 単位数	2年前期／講義 2単位（必修）	担当者	加藤 祥子
授業概要	<p>建築の成立と発展過程の歴史を社会や生活と求められる時代の空間、自然環境、外部との関係を通して理解する。本講義では、西洋における各時代の建築意匠に注目し、建築の歴史の変遷の流れを把握することを目的とする。古代から近世への足取りについて、社会的背景をふまえつつ、建築の意匠と技術を、実例を通して学ぶ。また、産業革命以降の新芸術運動とモダニズム建築の成立およびその思想について学ぶ。西洋各地における、各時代の建築文化の特色と独自性を理解する。</p>				
授業計画	① 西洋建築の概要 ② 古代（ギリシア建築） ③ 古代（ローマ建築） ④ 古代ローマ末期（初期キリスト教建築） ⑤ 中世（ビザンティン建築） ⑥ 中世（プレ・ロマネスク建築） ⑦ 中世（ロマネスク建築） ⑧ 中世（ゴシック建築）		⑨ 近世（ルネサンス建築） ⑩ 近世（バロック建築、古典主義建築、ロココ） ⑪ 近世（新古典主義建築） ⑫ 近世（歴史主義・折衷主義の建築） ⑬ 近代（新芸術運動） ⑭ 近代（モダニズム建築） ⑮ 現代建築 ⑯ 定期試験		
評価方法	出席状況・授業態度・提出物・小テスト30%、定期試験70%				
履修条件	なし				
教科書	彰国社「コンパクト版 建築史 日本・西洋」 「建築史」編集委員会著				
参考書	適宜、資料を配布				

生活デザイン学科（ID選択）

科目名	日本建築史	配当年次 単位数	2年前期／講義 2単位（選択）	担当者	畑中 久美子 清水 隆宏
授業概要	<p>建築の成立と発展過程の歴史を社会や生活と求められる時代の空間、自然環境、外部との関係を通して理解する。</p> <p>本講義では、日本建築史を中心に、各時代の建築意匠に注目し、建築の歴史の変遷の流れを把握することを目的とする。また、座学で学んだことを、実物をとおして確認するため、近隣の日本建築の見学へ数回赴く。</p>				
授業計画	① ガイダンス、日本建築の基本構成とその名称 ② 古代 ③ 古代の神社建築 ④ 飛鳥～奈良時代の寺院建築 ⑤ 古代の都城計画と寝殿造 ⑥ 密教建築と浄土教建築 ⑦ 神社の発展とその形式 ⑧ 大仏様と禅宗様		⑨ 見学 ⑩ 書院造 ⑪ 城郭建築 ⑫ 茶室と数寄屋建築 ⑬ 見学 ⑭ 民家 ⑮ レポート講評および復習 ⑯ 定期試験		
評価方法	出席状況・授業態度30%、レポート・定期試験70%				
履修条件	見学の交通費、入場料は各自負担				
教科書	「コンパクト版 建築史 日本・西洋」(彰国社)				
参考書	適宜、資料を配布する。				

生活デザイン学科（ID専修）

科目名	構造力学演習	配当年次 単位数	2年前期／演習 2単位（選択）	担当者	服部 宏己		
授業概要	<p>本講義は、構造力学で学んだ知識に関連した各種の構造実験を行い、構造力学等で学習した建築構造に関する基礎的な理論と実現象との整合を確かめることにより、その理解を深めることを目的とする。構造力学の講義では、建築構造物の安全性を確保するための基礎知識を概念的および数値的に習得するが、本講義では、構造実験によって得られた結果と既に修得した計算方法から得られた計算値を比較検証し、体験的に実感することによって、その理解を更に深めるものである。</p>						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ① 力の体感（力の合成・分解の理解） ② 折板構造（せいの大きさ（断面性能）の理解） ③ 力の釣合い（平行力の釣合いの理解） ④ 力と変形（フックの法則の理解） ⑤ 部材にかかる力（応力（N・Q・M）の理解） ⑥ 座屈（座屈現象・座屈荷重の理解） ⑦ 単純梁（単純梁のしくみの理解） ⑧ 耐力壁付きラーメン構造（面材の効果の理解） </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ⑨ 耐力壁付きラーメン構造（面材の効果の理解） ⑩ ケーブル構造（張力による示力図の理解） ⑪ アーチ構造（力の伝達の理解） ⑫ トラス構造（圧縮材・引張材の理解） ⑬ 演習課題（橋梁） ⑭ 同 ⑮ 耐力・デザインコンテスト（载荷実験） </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> ① 力の体感（力の合成・分解の理解） ② 折板構造（せいの大きさ（断面性能）の理解） ③ 力の釣合い（平行力の釣合いの理解） ④ 力と変形（フックの法則の理解） ⑤ 部材にかかる力（応力（N・Q・M）の理解） ⑥ 座屈（座屈現象・座屈荷重の理解） ⑦ 単純梁（単純梁のしくみの理解） ⑧ 耐力壁付きラーメン構造（面材の効果の理解） 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 耐力壁付きラーメン構造（面材の効果の理解） ⑩ ケーブル構造（張力による示力図の理解） ⑪ アーチ構造（力の伝達の理解） ⑫ トラス構造（圧縮材・引張材の理解） ⑬ 演習課題（橋梁） ⑭ 同 ⑮ 耐力・デザインコンテスト（载荷実験）
<ul style="list-style-type: none"> ① 力の体感（力の合成・分解の理解） ② 折板構造（せいの大きさ（断面性能）の理解） ③ 力の釣合い（平行力の釣合いの理解） ④ 力と変形（フックの法則の理解） ⑤ 部材にかかる力（応力（N・Q・M）の理解） ⑥ 座屈（座屈現象・座屈荷重の理解） ⑦ 単純梁（単純梁のしくみの理解） ⑧ 耐力壁付きラーメン構造（面材の効果の理解） 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 耐力壁付きラーメン構造（面材の効果の理解） ⑩ ケーブル構造（張力による示力図の理解） ⑪ アーチ構造（力の伝達の理解） ⑫ トラス構造（圧縮材・引張材の理解） ⑬ 演習課題（橋梁） ⑭ 同 ⑮ 耐力・デザインコンテスト（载荷実験） 						
評価方法	出席状況・授業態度40%、レポート等提出物60%						
履修条件	なし						
教科書	丸善出版 日本建築学会編 「はじめてまなぶ ちからとかたち」						
参考書	なし						

生活デザイン学科（ID専修）

科目名	構造計画	配当年次 単位数	2年後期／講義 2単位（選択）	担当者	服部 宏己		
授業概要	<p>本講義は、建築物の構造計画および構造設計の基本的な知識・考え方を習得することを目的とする。安全な建築物を設計する上では、構造種別に対応した部材・スパン等の常識的な寸法の知識に加え、その設計法を理解することが重要である。本講義では、構造設計の流れを把握すると共に、構造力学で学習した知識を更に発展させ、構造部材の設計法の基礎を習得し、建築構造に関する計画・設計の本質を理解する。また、構造設計を試みることにより、構造材料の特性やその役割について更に理解を深める。</p>						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ① 構造計画概要 ② 構造設計の流れ ③ 荷重(1)（固定荷重・積載荷重） ④ 荷重(2)（積雪荷重・風圧力） ⑤ 荷重(3)（地震力） ⑥ 木構造(1)（軸組構法） ⑦ 木構造(2)（壁構法） ⑧ 鉄筋コンクリート構造(1)（梁） </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ⑨ 鉄筋コンクリート構造(2)（柱） ⑩ 鉄筋コンクリート構造(3)（せん断・床） ⑪ 鉄骨構造(1)（梁） ⑫ 鉄骨構造(2)（柱） ⑬ 鉄骨構造(3)（接合部） ⑭ 2次設計(1)（層間変形角・偏心率・剛性率） ⑮ 2次設計(2)（保有水平耐力） ⑯ 定期試験 </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> ① 構造計画概要 ② 構造設計の流れ ③ 荷重(1)（固定荷重・積載荷重） ④ 荷重(2)（積雪荷重・風圧力） ⑤ 荷重(3)（地震力） ⑥ 木構造(1)（軸組構法） ⑦ 木構造(2)（壁構法） ⑧ 鉄筋コンクリート構造(1)（梁） 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 鉄筋コンクリート構造(2)（柱） ⑩ 鉄筋コンクリート構造(3)（せん断・床） ⑪ 鉄骨構造(1)（梁） ⑫ 鉄骨構造(2)（柱） ⑬ 鉄骨構造(3)（接合部） ⑭ 2次設計(1)（層間変形角・偏心率・剛性率） ⑮ 2次設計(2)（保有水平耐力） ⑯ 定期試験
<ul style="list-style-type: none"> ① 構造計画概要 ② 構造設計の流れ ③ 荷重(1)（固定荷重・積載荷重） ④ 荷重(2)（積雪荷重・風圧力） ⑤ 荷重(3)（地震力） ⑥ 木構造(1)（軸組構法） ⑦ 木構造(2)（壁構法） ⑧ 鉄筋コンクリート構造(1)（梁） 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 鉄筋コンクリート構造(2)（柱） ⑩ 鉄筋コンクリート構造(3)（せん断・床） ⑪ 鉄骨構造(1)（梁） ⑫ 鉄骨構造(2)（柱） ⑬ 鉄骨構造(3)（接合部） ⑭ 2次設計(1)（層間変形角・偏心率・剛性率） ⑮ 2次設計(2)（保有水平耐力） ⑯ 定期試験 						
評価方法	出席状況・授業態度20%、定期試験80%						
履修条件	なし						
教科書	学芸出版社 浅野清昭著 「改訂版 図説 やさしい構造設計」						
参考書	なし						

生活デザイン学科（ID専修・VD専修）

科目名	インテリアディスプレイデザイン	配当年次 単位数	2年前期／演習 2単位（選択）	担当者	加藤 祥子		
授業概要	<p>本演習では、パースペクティブの作図および模型制作を通して、建築物の内観および外観の二次元および三次元の表現方法を修得する。また、小さな空間提案を行うことにより、身体スケール感覚を養う。</p> <p>前半は、一点透視図、二点透視図および展開図の書き方を修得する。後半に極小店舗「ゆめのお店」の計画、インテリアディスプレイの提案を行い、模型および前半に習得したパースや図面表現を用いてプレゼンテーションを行う。一連の演習によってインテリアディスプレイに対する見識を増やし、計画力を磨く。</p>						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ① 建築・インテリアの表現 ② 一点透視図 ③ 二点透視図 ④ アイソメトリック図 ⑤ 展開図の実測 ⑥ 展開図の製図 ⑦ 図面表現の仕上げ ⑧ 図面表現の講評会 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ⑨ 課題「ゆめのお店」ガイダンス・計画 ⑩ 業種決定・スタディ ⑪ スタディおよびエスキスチェック ⑫ エスキスチェックおよび製図 ⑬ 製図および模型制作(1) ⑭ 製図および模型制作(2) ⑮ 講評会 ⑯ 作品提出 </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> ① 建築・インテリアの表現 ② 一点透視図 ③ 二点透視図 ④ アイソメトリック図 ⑤ 展開図の実測 ⑥ 展開図の製図 ⑦ 図面表現の仕上げ ⑧ 図面表現の講評会 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 課題「ゆめのお店」ガイダンス・計画 ⑩ 業種決定・スタディ ⑪ スタディおよびエスキスチェック ⑫ エスキスチェックおよび製図 ⑬ 製図および模型制作(1) ⑭ 製図および模型制作(2) ⑮ 講評会 ⑯ 作品提出
<ul style="list-style-type: none"> ① 建築・インテリアの表現 ② 一点透視図 ③ 二点透視図 ④ アイソメトリック図 ⑤ 展開図の実測 ⑥ 展開図の製図 ⑦ 図面表現の仕上げ ⑧ 図面表現の講評会 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 課題「ゆめのお店」ガイダンス・計画 ⑩ 業種決定・スタディ ⑪ スタディおよびエスキスチェック ⑫ エスキスチェックおよび製図 ⑬ 製図および模型制作(1) ⑭ 製図および模型制作(2) ⑮ 講評会 ⑯ 作品提出 						
評価方法	出席状況・授業態度20%、提出課題80%						
履修条件	制作に必要な材料費等は各自で負担						
教科書	学芸出版社「新しい建築の製図」 新しい建築の製図編集委員会編						
参考書	秀和システム「スケッチパース ツボとコツ」 宮後 浩著						

生活デザイン学科（VD専修）

科目名	発想トレーニング	配当年次 単位数	1年前期／演習 2単位（必修）	担当者	奥村 和則		
授業概要	<p>優れたデザインを生み出すには発想力が不可欠であり、また、デザインプロセスのあらゆる局面でも求められている。柔軟に発想する能力は、新しいコンセプトやデザインを生み出し、その価値を創造している。</p> <p>本講義では様々な発想方法を学び、演習を通して基本となる技法を体得して、発想力の活性化と実践に役立つ発想法の習得を目指す。</p>						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ① インTRODクシヨン ② アイデアとデザイン ③ 発散技法(1)ーマインドマップ 他 ④ 発散技法(2)ーブレインストーミング 他 ⑤ 発散技法(3)ーチェックリスト法 他 ⑥ 収束技法(4)ーKJ法 他 ⑦ 収束技法(5)ーストーリー法 他 ⑧ 発想を具現化するトレーニング(1)ー紙の折・切り </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ⑨ 発想を具現化するトレーニング(2)ー展開図 ⑩ モデルを用いた発想法(1)ーアイデアスケッチ ⑪ モデルを用いた発想法(2)ーモックアップ ⑫ モデルを用いた発想法(3)ー本制作 ⑬ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑭ 発想法からの展開 素材の可能性(1)ー選定 ⑮ 発想法からの展開 素材の可能性(2)ー本制作 ⑯ 総評・まとめ </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> ① インTRODクシヨン ② アイデアとデザイン ③ 発散技法(1)ーマインドマップ 他 ④ 発散技法(2)ーブレインストーミング 他 ⑤ 発散技法(3)ーチェックリスト法 他 ⑥ 収束技法(4)ーKJ法 他 ⑦ 収束技法(5)ーストーリー法 他 ⑧ 発想を具現化するトレーニング(1)ー紙の折・切り 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 発想を具現化するトレーニング(2)ー展開図 ⑩ モデルを用いた発想法(1)ーアイデアスケッチ ⑪ モデルを用いた発想法(2)ーモックアップ ⑫ モデルを用いた発想法(3)ー本制作 ⑬ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑭ 発想法からの展開 素材の可能性(1)ー選定 ⑮ 発想法からの展開 素材の可能性(2)ー本制作 ⑯ 総評・まとめ
<ul style="list-style-type: none"> ① インTRODクシヨン ② アイデアとデザイン ③ 発散技法(1)ーマインドマップ 他 ④ 発散技法(2)ーブレインストーミング 他 ⑤ 発散技法(3)ーチェックリスト法 他 ⑥ 収束技法(4)ーKJ法 他 ⑦ 収束技法(5)ーストーリー法 他 ⑧ 発想を具現化するトレーニング(1)ー紙の折・切り 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 発想を具現化するトレーニング(2)ー展開図 ⑩ モデルを用いた発想法(1)ーアイデアスケッチ ⑪ モデルを用いた発想法(2)ーモックアップ ⑫ モデルを用いた発想法(3)ー本制作 ⑬ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑭ 発想法からの展開 素材の可能性(1)ー選定 ⑮ 発想法からの展開 素材の可能性(2)ー本制作 ⑯ 総評・まとめ 						
評価方法	出席状況・授業態度30%、レポート・提出物70%						
履修条件	なし						
教科書	なし						
参考書	ダイヤモンド社「アイデア・ブック スウェーデン式」						

生活デザイン学科（VD専修）

科目名	CG演習	配当年次 単位数	1年後期/演習 2単位（必修）	担当者	奥村 和則		
授業概要	<p>本講義では、印刷（DTP）およびWeb用グラフィックを作成するための業界標準アプリケーションソフト、Adobe Photoshop と Illustrator の基本操作、および、デジタルデザインの基礎的な技術や知識の習得を目指す。この2つのアプリケーションソフトを通じ、ベクタ画像とラスタ画像の特性を理解し、コンピュータによる二次元表現を行う際に、必要な能力を身につけ、今後の専門科目に繋げていく。</p>						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ① インTRODクシヨン ② ベクタ画像の編集(1)ー色彩と配置 ③ ベクタ画像の編集(2)ー文字 ④ ベクタ画像の編集(3)ー線と平面レイアウト ⑤ ベクタ画像の編集(4)ーガイドとレイヤー ⑥ ベクタ画像の編集(5)ー習得試験・実践的演習 ⑦ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑧ ラスタ画像の編集(1)ー画像サイズとトリミング </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ⑨ ラスタ画像の編集(2)ーパスと切り抜き ⑩ ラスタ画像の編集(3)ー範囲選択とチャンネル ⑪ ラスタ画像の編集(4)ーフィルター ⑫ ベクタ画とラスタ画像の連携と印刷設定 ⑬ 総合的な画像編集(1)ー課題提示・カンパ作成 ⑭ 総合的な画像編集(2)ーエスキース ⑮ 総合的な画像編集(3)ー本制作 ⑯ 成果発表 ～プレゼンテーション～ </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> ① インTRODクシヨン ② ベクタ画像の編集(1)ー色彩と配置 ③ ベクタ画像の編集(2)ー文字 ④ ベクタ画像の編集(3)ー線と平面レイアウト ⑤ ベクタ画像の編集(4)ーガイドとレイヤー ⑥ ベクタ画像の編集(5)ー習得試験・実践的演習 ⑦ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑧ ラスタ画像の編集(1)ー画像サイズとトリミング 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ ラスタ画像の編集(2)ーパスと切り抜き ⑩ ラスタ画像の編集(3)ー範囲選択とチャンネル ⑪ ラスタ画像の編集(4)ーフィルター ⑫ ベクタ画とラスタ画像の連携と印刷設定 ⑬ 総合的な画像編集(1)ー課題提示・カンパ作成 ⑭ 総合的な画像編集(2)ーエスキース ⑮ 総合的な画像編集(3)ー本制作 ⑯ 成果発表 ～プレゼンテーション～
<ul style="list-style-type: none"> ① インTRODクシヨン ② ベクタ画像の編集(1)ー色彩と配置 ③ ベクタ画像の編集(2)ー文字 ④ ベクタ画像の編集(3)ー線と平面レイアウト ⑤ ベクタ画像の編集(4)ーガイドとレイヤー ⑥ ベクタ画像の編集(5)ー習得試験・実践的演習 ⑦ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑧ ラスタ画像の編集(1)ー画像サイズとトリミング 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ ラスタ画像の編集(2)ーパスと切り抜き ⑩ ラスタ画像の編集(3)ー範囲選択とチャンネル ⑪ ラスタ画像の編集(4)ーフィルター ⑫ ベクタ画とラスタ画像の連携と印刷設定 ⑬ 総合的な画像編集(1)ー課題提示・カンパ作成 ⑭ 総合的な画像編集(2)ーエスキース ⑮ 総合的な画像編集(3)ー本制作 ⑯ 成果発表 ～プレゼンテーション～ 						
評価方法	出席状況・授業態度30%、プレゼンテーション・提出物70%						
履修条件	なし						
教科書	なし						
参考書	初回の講義で指定する						

生活デザイン学科（VD必修）

科目名	映像機器論	配当年次 単位数	1年後期/講義 2単位（必修）	担当者	砂田 治弥		
授業概要	<p>科学技術の進歩により、情報メディア機器はより我々の身近なものとなってきている。情報メディア機器の一般化は、我々の映像撮影に対する敷居を低くし、手軽に高画質な映像を撮影し楽しめるようにもなった。この映像機器論では映像撮影機器の基本である一眼レフカメラとビデオカメラを通じて、機器の機構、性能及び撮影の基本と編集を理解してもらうことを目的とする。日常生活における映像撮影においても、講義を通じて得られた技術、知識を活かしより良い映像表現ができるような人材の育成を目指す。</p>						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ① インTRODクシヨン ② 静止画について（アナログとデジタル） ③ 静止画について（絞りとF値） ④ 静止画について（シャッタースピード） ⑤ 静止画について（WB・色補正） ⑥ 静止画について（撮影技法 人物） ⑦ 静止画について（撮影技法 静物/風景） ⑧ 静止画まとめ、応用 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ⑨ 動画について（基本技術） ⑩ 動画について（絵コンテ） ⑪ 動画について（作例紹介） ⑫ 動画について（撮影技法） ⑬ 動画編集・トランジション ⑭ 動画編集・エフェクト ⑮ 動画編集 ⑯ テスト・講評会・まとめ </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> ① インTRODクシヨン ② 静止画について（アナログとデジタル） ③ 静止画について（絞りとF値） ④ 静止画について（シャッタースピード） ⑤ 静止画について（WB・色補正） ⑥ 静止画について（撮影技法 人物） ⑦ 静止画について（撮影技法 静物/風景） ⑧ 静止画まとめ、応用 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 動画について（基本技術） ⑩ 動画について（絵コンテ） ⑪ 動画について（作例紹介） ⑫ 動画について（撮影技法） ⑬ 動画編集・トランジション ⑭ 動画編集・エフェクト ⑮ 動画編集 ⑯ テスト・講評会・まとめ
<ul style="list-style-type: none"> ① インTRODクシヨン ② 静止画について（アナログとデジタル） ③ 静止画について（絞りとF値） ④ 静止画について（シャッタースピード） ⑤ 静止画について（WB・色補正） ⑥ 静止画について（撮影技法 人物） ⑦ 静止画について（撮影技法 静物/風景） ⑧ 静止画まとめ、応用 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 動画について（基本技術） ⑩ 動画について（絵コンテ） ⑪ 動画について（作例紹介） ⑫ 動画について（撮影技法） ⑬ 動画編集・トランジション ⑭ 動画編集・エフェクト ⑮ 動画編集 ⑯ テスト・講評会・まとめ 						
評価方法	出席状況・授業態度等30%、プレゼンテーション・テスト・課題作品提出等70%						
履修条件	なし						
教科書	なし						
参考書	授業の中で随時紹介						

生活デザイン学科（VD専修）

科目名	映像表現論	配当年次 単位数	2年後期／講義 2単位（選択）	担当者	坂本 牧葉
授業概要	アニメーション表現は今日の広告媒体やデジタルコンテンツにおいて、ユーザの興味を惹き、情報伝達に優れた表現手段として知られる。本講義では、連続した平面表現を通じたアニメーション表現の習得を目的とする。講義では、まずアニメーション表現の基本的な手法や考え方を学ぶ。その後、平面的、立体的、背景を含めた動きを段階的に演習によって学ぶ。その後、2つのストップモーションアニメの制作への取り組みを通して、総合的な応用技術を身につける。				
授業計画	① インTRODクシヨン、アニメーションの特性と役割 ② 平面的な動きの表現 ③ 立体的な動きの表現 ④ カメラワーク、視覚効果 ⑤ 背景等を含めた総合的な動き ⑥ 短編ストップモーションアニメ制作(1) ⑦ 短編ストップモーションアニメ制作(2) ⑧ 短編ストップモーションアニメ制作(3)	⑨ 短編ストップモーションアニメ制作 講評会 ⑩ ストップモーションアニメ制作：絵コンテ制作(1) ⑪ ストップモーションアニメ制作：絵コンテ制作(2) ⑫ ストップモーションアニメ制作：制作(1) ⑬ ストップモーションアニメ制作：制作(2) ⑭ ストップモーションアニメ制作：制作(3) ⑮ ストップモーションアニメ制作：制作(4) ⑯ 総評			
評価方法	作品提出による評価：70%、出席・授業態度・プレゼンテーション：30%				
履修条件	なし				
教科書	なし				
参考書	グラフィック社「アニメーションのつくりかた」				

生活デザイン学科（VD専修）

科目名	グラフィックデザインⅠ	配当年次 単位数	1年前期／演習 2単位（必修）	担当者	井口 仁長
授業概要	グラフィックデザインとは、情報を伝達する手段として、文字、画像、色などを視覚的に構成することです。文字はグラフィックデザインの最も基本的な要素のひとつであり、文字を的確にかつ美しく構成することをタイポグラフィと言います。この講義では文字を観察し、文字を書き、文字を作ります。それらの演習を通じてグラフィックデザインとは何かを考え、文字を使ったいろいろな表現とタイポグラフィの基礎を学びます。				
授業計画	① グラフィックデザインについて ② 図形のバランス ③ 和文レタリング(1) 制作 ④ 和文レタリング(2) 発表 ⑤ 欧文レタリング(1) 制作 ⑥ 欧文レタリング(2) 発表 ⑦ 文字に見えるカタチ ⑧ 文字組	⑨ ビットマップフォント ⑩ 図形を組み合わせた文字(1) 制作 ⑪ 図形を組み合わせた文字(2) チェック ⑫ 図形を組み合わせた文字(3) 発表 ⑬ レタリングによるオリジナル書体(1) 制作 ⑭ レタリングによるオリジナル書体(2) チェック ⑮ レタリングによるオリジナル書体(3) チェック ⑯ レタリングによるオリジナル書体(4) 発表			
評価方法	提出物（70%）、発表・プレゼンテーション（10%）、出席状況・受講態度（20%）				
履修条件	制作に必要な材料費は各自で負担すること				
教科書	授業ごとに資料を配布します				
参考書	授業内に適時紹介します				

生活デザイン学科（VD専修）

科目名	グラフィックデザインⅡ	配当年次 単位数	1年後期/演習 2単位（必修）	担当者	井口 仁長
授業概要	<p>文字が発明される以前、その時代に生きる人々は絵や図や記号といった図象を使いコミュニケーションをしていました。現代に生きる私達もピクトグラムと呼ばれる絵文字や、サインと呼ばれる視覚記号に囲まれて生活をしています。この授業では生活の中にある様々な物事を、文字以外の図象で表現することの重要性を考え、そして実際に制作しながら、グラフィックデザインの基礎と、言葉や言語に頼らず内容の伝達を直感的に行うための表現の仕方を学びます。</p>				
授業計画	① 友人を表すシンボルマーク(1) 制作 ② 友人を表すシンボルマーク(2) 発表 ③ 施設を表すシンボルマーク(1) 制作 ④ 施設を表すシンボルマーク(2) 発表 ⑤ ピクトグラムをさがす ⑥ ピクトグラムによる表現 ⑦ 施設で利用されるピクトグラム(1) 制作 ⑧ 施設で利用されるピクトグラム(2) 中間チェック	⑨ 施設で利用されるピクトグラム(3) 中間チェック ⑩ 施設で利用されるピクトグラム(4) 発表 ⑪ 街や施設のサインシステム ⑫ 学内サインシステムの提案(1) リサーチ ⑬ 学内サインシステムの提案(2) 中間チェック ⑭ 学内サインシステムの提案(3) 中間チェック ⑮ 学内サインシステムの提案(4) 中間チェック ⑯ 学内サインシステムの提案(5) 発表			
評価方法	提出物（60%）、発表・プレゼンテーション（20%）、出席状況・受講態度（20%）				
履修条件	制作に必要な材料費は各自で負担すること				
教科書	授業ごとに資料を配布します				
参考書	授業内に適時紹介します				

生活デザイン学科（VD専修）

科目名	グラフィックデザインⅢ	配当年次 単位数	2年前期/演習 2単位（必修）	担当者	小川 直茂
授業概要	<p>本授業では、グラフィックデザイン領域の実践的内容として、ポスターデザイン、インフォグラフィック、パッケージデザインなど実社会でのデザイン現場に即したテーマを設定し、作品の制作を行う。コンセプト立案やスケッチ、フィニッシュワークなどデザインに関する基本的能力の習得はもちろんのこと、一つのデザインプロジェクトを通じて発想から表現、訴求までの一連の手順を体感・理解することで、デザインの社会における役割への理解を深め、総合的なデザイン能力の向上を目指す。</p>				
授業計画	① ポスターデザイン：キャッチコピー立案 ② ポスターデザイン：コンセプト・アイデア立案 ③ ポスターデザイン：ラフ制作 ④ ポスターデザイン：本制作 ⑤ ポスターデザイン：成果発表 ⑥ インフォグラフィック：コンテンツ調査 ⑦ インフォグラフィック：コンセプト・アイデア立案 ⑧ インフォグラフィック：ラフ制作	⑨ インフォグラフィック：本制作 ⑩ インフォグラフィック：成果発表 ⑪ パッケージデザイン：コンセプト・アイデア立案 ⑫ パッケージデザイン：機能・構造の検討 ⑬ パッケージデザイン：ラフ制作 ⑭ パッケージデザイン：本制作 ⑮ パッケージデザイン：成果発表			
評価方法	提出作品による評価：70%、プレゼンテーション・受講態度による評価：30%				
履修条件	制作に必要な材料費は各自で負担すること				
教科書	なし				
参考書	適時案内する				

生活デザイン学科（VD専修）

科目名	グラフィックデザインⅣ	配当年次 単位数	2年後期／演習 2単位（必修）	担当者	小川 直茂
授業概要	<p>本授業では、グラフィックデザイン領域の専門教育科目の総仕上げとして、包括的コンセプトの元に多様なデザイン成果物を取り扱うディレクション型デザインプロジェクトをテーマに設定して、作品の制作に取り組む。学生個々のデザイン能力の向上はもとより、チーム体制でのデザインワークの実施を通じて、プロジェクト遂行にあたって必要なコミュニケーション能力や、チームにおける各々の役割に応じたワークマネジメント能力、チーム運営能力の習得までを視野に入れている。</p>				
授業計画	① 授業概説、課題提示 ② デザインワーク／個人：コンセプト・アイデア立案 ③ デザインワーク／個人：ラフ制作 ④ デザインワーク／個人：本制作 ⑤ デザインワーク／個人：成果発表 ⑥ デザインワーク／チーム：包括的コンセプト策定 ⑦ デザインワーク／チーム：コンテンツ検討 ⑧ デザインワーク／チーム：ラフ制作(1)	⑨ デザインワーク／チーム：ラフ制作(2) ⑩ デザインワーク／チーム：中間発表 ⑪ デザインワーク／チーム：本制作(1) ⑫ デザインワーク／チーム：本制作(2) ⑬ デザインワーク／チーム：本制作(3) ⑭ デザインワーク／チーム：本制作(4) ⑮ デザインワーク／チーム：成果発表			
評価方法	提出作品による評価：70%、プレゼンテーション・受講態度による評価：30%				
履修条件	制作に必要な材料費は各自で負担すること				
教科書	なし				
参考書	適時案内する				

生活デザイン学科（VD専修）

科目名	イラストレーションⅠ	配当年次 単位数	1年前期／演習 2単位（必修）	担当者	坂本 牧葉
授業概要	<p>『イラストレーション』はその意味するところを、あたかも光をあてるかのような明確さで一瞬のうちに伝達することのできる非言語コミュニケーション手段である。言語表現が困難なものや、本来は見えない事柄も視覚表現することによって、その意味を可視化して伝えることができる。本講義では、演習形式によってデフォルメや比喩といったイラストレーション制作における基本的な知識と技術を習得する。</p>				
授業計画	① インTRODクシヨン、画材探求 ② 人物のイラスト表現：デフォルメ表現(1) ③ 人物のイラスト表現：デフォルメ表現(2) ④ 人物のイラスト表現：表情の表現(1) ⑤ 人物のイラスト表現：表情の表現(2) ⑥ 人物のイラスト表現：老若男女(1) ⑦ 人物のイラスト表現：老若男女(2) ⑧ 人物のイラスト表現：擬人化の表現	⑨ 立体イラスト制作(1) 塑造 ⑩ 立体イラスト制作(2) 背景等制作、撮影 ⑪ 立体イラスト制作(3) 発表 ⑫ 総合課題：架空の世界観のイラスト表現(1) ⑬ 総合課題：架空の世界観のイラスト表現(2) ⑭ 総合課題：架空の世界観のイラスト表現(3) ⑮ 総合課題：架空の世界観のイラスト表現(4) ⑯ 総評			
評価方法	作品提出による評価70%、出席・授業態度・プレゼンテーション30%				
履修条件	なし				
教科書	なし				
参考書	初回の授業で案内する。				

生活デザイン学科 (VD専修)

科目名	イラストレーションⅡ	配当年次 単位数	1年後期/演習 2単位 (必修)	担当者	小川 直茂
授業概要	人間の持つコミュニケーション手法の中で、最も非言語的なもの一つとしてイラストレーションが挙げられる。「百聞は一見に如かず」の格言どおり、イラストレーションは言語では伝達が困難な情報を効果的に伝えることができ、その情報伝達能力は書籍をはじめとした紙媒体、映像、Web などさまざまなメディアで活用されている。本授業では、実社会におけるさまざまな用途に応じたイラスト表現 (キャラクターデザイン、挿絵、ユーモア表現など) について、課題制作を通して実践的な能力を修得する。				
授業計画	① 基礎(1) : 細密に描く ② 基礎(2) : 植物を描く ③ 基礎(3) : 動物を描く ④ 基礎(4) : 人工物を描く ⑤ 基礎(5) : 無形物を描く ⑥ 基礎(6) : 空間を描く① ⑦ 基礎(6) : 空間を描く② ⑧ 発展(1) : 風刺・解説のイラストレーション①		⑨ 発展(1) : 風刺・解説のイラストレーション② ⑩ 発展(2) : キャラクターデザイン① ⑪ 発展(2) : キャラクターデザイン② ⑫ 発展(2) : キャラクターデザイン③ ⑬ 発展(3) : 表紙・挿絵のイラストレーション① ⑭ 発展(3) : 表紙・挿絵のイラストレーション② ⑮ 発展(3) : 表紙・挿絵のイラストレーション③		
評価方法	提出作品による評価 : 80%、プレゼンテーション・受講態度による評価 : 20%				
履修条件	制作に必要な材料費は各自で負担すること				
教科書	なし				
参考書	飛鳥新社『みんなのイラスト教室』中村佑介著、その他適時案内する				

生活デザイン学科 (VD専修)

科目名	絵本・イラストレーション	配当年次 単位数	2年前期/演習 2単位 (必修)	担当者	坂本 牧葉
授業概要	言語コミュニケーションの手段であるイラストレーション表現を、文章や連続性などによる効果を含めた絵本の形態へ展開する。絵本はその巧みな視覚表現によって、年齢を問わずさまざまなユーザに受け入れられやすく、ストーリーや素材などによって、多様な魅力的な表現することが可能である。絵本の制作を通して、他者への伝わりやすさ、ストーリーの面白さ、素材性を考慮した視覚コミュニケーションを学ぶ。				
授業計画	① インTRODクッション、製本ワークショップ ② 4枚の絵による物語 : ストーリー立案 ③ 4枚の絵による物語 : 制作(1) ④ 4枚の絵による物語 : 制作(2) ⑤ ミニ絵本制作 : ストーリー立案 ⑥ ミニ絵本制作 : ラフ制作、ブックデザイン ⑦ ミニ絵本制作 : 原画制作(3) ⑧ ミニ絵本制作 : 原画制作(4)		⑨ ミニ絵本制作 : 講評 ⑩ オリジナル絵本 : ストーリー立案 ⑪ 本の制作 : ラフ制作、ブックデザイン ⑫ 絵本の制作 : 原画制作(1) ⑬ 絵本の制作 : 原画制作(2) ⑭ 絵本の制作 : 原画制作(3) ⑮ 絵本の制作 : 印刷・製本作業(4) ⑯ 総評		
評価方法	作品提出による評価 : 70%、出席・授業態度・プレゼンテーション : 30%				
履修条件	なし				
教科書	なし				
参考書	美術出版社「みずゑBOOK イラストレーションの基本」、白泉社「月刊MOE」				

生活デザイン学科 (VD専修)

科目	コミュニケーションデザイン論 I	配当年次 単位数	1年後期/講義 2単位 (必修)	担当者	小川 直茂
授業概要	<p>メディアは多様かつ大容量へと変化し、もの・ことの情報を探し・まとめ・伝える」ことは一般的になっているが、多くの情報受益者は、より効果的な情報発信を求めているようになってきている。</p> <p>本授業では、効果的な情報収集からその伝達・表現方法を、2年前期に行う「コミュニケーションデザイン論 II」と一貫して展開していく。特にヴィジュアルプレゼンテーションを重視し、コピー・イメージの作成方法から、取材や調査を伴う客観的事実の論述まで、視覚的に訴求力を高められるように展開していく。</p>				
授業計画	① インTRODクシヨン ② コピー概論 ③ セルフプロモーション (調査) ④ セルフプロモーション (分析) ⑤ セルフプロモーション (アイデア立案) ⑥ セルフプロモーション (コピー・エスキス) ⑦ セルフプロモーション (コピー仕上げ) ⑧ セルフプロモーション (ヴィジュアル・エスキス)		⑨ セルフプロモーション (ヴィジュアル仕上げ) ⑩ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑪ クリエイティブ・コピー (調査) ⑫ クリエイティブ・コピー (分析) ⑬ クリエイティブ・コピー (アイデア立案) ⑭ クリエイティブ・コピー (エスキス) ⑮ クリエイティブ・コピー (仕上げ) ⑯ 成果発表 ～プレゼンテーション～		
評価方法	提出作品・プレゼンテーションによる評価：70%、受講態度による評価：30%				
履修条件	制作に必要な材料費は各自で負担すること				
教科書	なし				
参考書	宣伝会議『広告コピーってこう書くんだ！読本』谷山雅計著、その他適時案内する				

生活デザイン学科 (VD専修)

科目名	コミュニケーションデザイン論 II	配当年次 単位数	2年前期/講義 2単位 (必修)	担当者	奥村 和則
授業概要	<p>メディアは多様かつ大容量へと変化し、もの・ことの情報を探し・まとめ・伝える」ことは一般的になってきているが、多くの情報受益者は、より効果的な情報発信を求めているようになってきている。</p> <p>本講義では、効果的な情報収集からその伝達・表現方法を重視し、デザイン展開を行う。特に、ヴィジュアルプレゼンテーションを戦略的に取り組むため、コピー・イメージの作成方法から、取材や調査を伴う客観的事実の論述まで、訴求力を高められるように展開していく。</p>				
授業計画	① インTRODクシヨン ② 表現のエレメント(1)ーコピー ③ 表現のエレメント(2)ーヴィジュアル ④ コミュニケーションの定義 ⑤ コミュニケーションの設計(1)ーテーマ設定 ⑥ コミュニケーションの設計(2)ーコンセプト ⑦ コミュニケーションツールの企画(1)ースライド ⑧ コミュニケーションツールの企画(2)ープレゼン		⑨ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑩ 情報収集と戦略的PR (1)ーテーマ設定 ⑪ 情報収集と戦略的PR (2)ー情報収集 ⑫ 情報収集と戦略的PR (3)ー特徴抽出 ⑬ 情報収集と戦略的PR (4)ー情報交換 ⑭ 情報収集と戦略的PR (5)ースライド制作 ⑮ 情報収集と戦略的PR (6)ープレゼン準備 ⑯ 成果発表 ～プレゼンテーション～		
評価方法	出席状況・授業態度30%、プレゼンテーション・提出物70%				
履修条件	なし				
教科書	なし				
参考書	初回の講義で指定する				

生活デザイン学科 (VD専修)

科目名	DTP演習	配当年次 単位数	2年前期/演習 2単位 (選択)	担当者	奥村 和則		
授業概要	<p>Adobe 社による Postscript の開発や、WYSIWYG (モニター画面と同じものが印刷される) 技術が確立され、印刷技術のデジタル化が始まった。現在では従来行程に変わってグラフィックソフト、画像編集ソフト、レイアウトソフトの三つを用いたDTP (Desk Top Publishing) が印刷の主流になってきている。</p> <p>本講義では、コンピュータを使って作品を制作・編集することにより、DTPの知識と技術を習得することを目的とする。</p>						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ① インTRODククション ② レイアウトについて ③ 文字組について ④ 折りを用いたリーフレットの制作(1)ーラフカンブ ⑤ 折りを用いたリーフレットの制作(2)ー要素配置 ⑥ 折りを用いたリーフレットの制作(3)ー調整 ⑦ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑧ 二色印刷について </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ⑨ 二色印刷によるフライヤー制作 ⑩ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑪ InDesign の基本操作 ⑫ InDesign によるレイアウト編集 ⑬ 小冊子の設計・制作(1)ーマスター制作 ⑭ 小冊子の設計・制作(2)ーページデザイン・編集 ⑮ 小冊子の設計・制作(3)ーエレメントデザイン ⑯ 小冊子の設計・制作(4)ー印刷・製本 </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> ① インTRODククション ② レイアウトについて ③ 文字組について ④ 折りを用いたリーフレットの制作(1)ーラフカンブ ⑤ 折りを用いたリーフレットの制作(2)ー要素配置 ⑥ 折りを用いたリーフレットの制作(3)ー調整 ⑦ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑧ 二色印刷について 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 二色印刷によるフライヤー制作 ⑩ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑪ InDesign の基本操作 ⑫ InDesign によるレイアウト編集 ⑬ 小冊子の設計・制作(1)ーマスター制作 ⑭ 小冊子の設計・制作(2)ーページデザイン・編集 ⑮ 小冊子の設計・制作(3)ーエレメントデザイン ⑯ 小冊子の設計・制作(4)ー印刷・製本
<ul style="list-style-type: none"> ① インTRODククション ② レイアウトについて ③ 文字組について ④ 折りを用いたリーフレットの制作(1)ーラフカンブ ⑤ 折りを用いたリーフレットの制作(2)ー要素配置 ⑥ 折りを用いたリーフレットの制作(3)ー調整 ⑦ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑧ 二色印刷について 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 二色印刷によるフライヤー制作 ⑩ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑪ InDesign の基本操作 ⑫ InDesign によるレイアウト編集 ⑬ 小冊子の設計・制作(1)ーマスター制作 ⑭ 小冊子の設計・制作(2)ーページデザイン・編集 ⑮ 小冊子の設計・制作(3)ーエレメントデザイン ⑯ 小冊子の設計・制作(4)ー印刷・製本 						
評価方法	出席状況・授業態度30%、プレゼンテーション・提出物70%						
履修条件	なし						
教科書	なし						
参考書	初回の講義で指定する						

生活デザイン学科 (VD専修)

科目名	Webデザイン	配当年次 単位数	2年前期/演習 2単位 (選択)	担当者	井口 仁長		
授業概要	<p>ウェブページ、あるいはウェブサイトのデザインでは、利用者が容易に情報を得ることができるように情報を整理・構築するだけではなく、見た目にも美しく、かつ心地の良い体験を与えることが求められます。この授業では、ウェブページやウェブサイトをデザインするための基本となる技術や知識の習得を目標に、利用者を導くグラフィックスの作成や、直感的で使いやすいユーザインタフェースの設計を、講義と演習を通じて学びます。</p>						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ① ウェブデザインについて ② ウェブページの模写(1) 1段組のレイアウト ③ ウェブページの模写(2) 2段組のレイアウト ④ ウェブページの模写(3) 横並びのメニュー ⑤ プランニング(1) コンセプトメイキング ⑥ プランニング(2) 情報収集 ⑦ プランニング(3) アイディアスケッチ ⑧ ウェブサイト制作(1) プロトタイプの作成 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ⑨ ウェブサイト制作(2) 素材の作成 ⑩ ウェブサイト制作(3) コーディング (HTML) ⑪ ウェブサイト制作(4) コーディング (HTML) ⑫ ウェブサイト制作(5) コーディング (CSS) ⑬ ウェブサイト制作(6) コーディング (CSS) ⑭ ウェブサイト制作(7) 中間チェック ⑮ ウェブサイト制作(8) 修正 ⑯ ウェブサイト制作(9) 発表 </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> ① ウェブデザインについて ② ウェブページの模写(1) 1段組のレイアウト ③ ウェブページの模写(2) 2段組のレイアウト ④ ウェブページの模写(3) 横並びのメニュー ⑤ プランニング(1) コンセプトメイキング ⑥ プランニング(2) 情報収集 ⑦ プランニング(3) アイディアスケッチ ⑧ ウェブサイト制作(1) プロトタイプの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ ウェブサイト制作(2) 素材の作成 ⑩ ウェブサイト制作(3) コーディング (HTML) ⑪ ウェブサイト制作(4) コーディング (HTML) ⑫ ウェブサイト制作(5) コーディング (CSS) ⑬ ウェブサイト制作(6) コーディング (CSS) ⑭ ウェブサイト制作(7) 中間チェック ⑮ ウェブサイト制作(8) 修正 ⑯ ウェブサイト制作(9) 発表
<ul style="list-style-type: none"> ① ウェブデザインについて ② ウェブページの模写(1) 1段組のレイアウト ③ ウェブページの模写(2) 2段組のレイアウト ④ ウェブページの模写(3) 横並びのメニュー ⑤ プランニング(1) コンセプトメイキング ⑥ プランニング(2) 情報収集 ⑦ プランニング(3) アイディアスケッチ ⑧ ウェブサイト制作(1) プロトタイプの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ ウェブサイト制作(2) 素材の作成 ⑩ ウェブサイト制作(3) コーディング (HTML) ⑪ ウェブサイト制作(4) コーディング (HTML) ⑫ ウェブサイト制作(5) コーディング (CSS) ⑬ ウェブサイト制作(6) コーディング (CSS) ⑭ ウェブサイト制作(7) 中間チェック ⑮ ウェブサイト制作(8) 修正 ⑯ ウェブサイト制作(9) 発表 						
評価方法	提出物 (70%)、発表・プレゼンテーション (10%)、出席状況・受講態度(20%)						
履修条件	「情報デザイン論」の単位を取得していること						
教科書	授業ごとにウェブページを配信、または資料を配布します						
参考書	授業内に適時紹介します						

生活デザイン学科（VD専修）

科目名	情報デザイン論	配当年次 単位数	1年後期／講義 2単位（必修）	担当者	坂本 牧葉
授業概要	Web サイト構築に必要な基礎知識と技術について学ぶ。はじめにサイト構築の流れやコンセプトメイキングなどについて講義し、ペーパーテストを行う。つづいて、主に演習を通してHtml、CSS、サイト構築に必要な画像処理などの基礎知識・技術について習得する。さらに知的財産権をはじめとする、情報を扱う上で必要な知識やモラルについても学び、Web デザイナー検定（ベーシック）の資格取得を目指す。				
授業計画	① 座学：コンセプトメイキング、Webサイトの分類 ② 座学：情報収集・分類・組織化 ③ 座学：画像処理、サイトの評価・メンテナンス ④ 座学：インターネットの基礎 ⑤ 前半 ペーパーテスト(1) ⑥ 演習(1)HTMLの構造について ⑦ 演習(2)HTML：画像配置、表組等 ⑧ 演習(3)HTML：簡条書き、フォーム等	⑨ 演習(4)CSS：要素ボックス、レイアウト ⑩ 後半 ペーパーテスト(2) ⑪ 演習課題：Webページの制作(1)企画 ⑫ 演習課題：Webページの制作(2)デザイン ⑬ 演習課題：Webページの制作(3)デザイン ⑭ 演習課題：Webページの制作(4)コーディング ⑮ 演習課題：Webページの制作(5)コーディング ⑯ 総評			
評価方法	試験40%、作品提出40%、出席・授業態度20%				
履修条件	なし				
教科書	CG-ARTs 検定協会「入門 Web デザイン 改定第三版」				
参考書	初回授業で案内する。				

生活デザイン学科（VD専修）

科目名	デジタルデザイン表現	配当年次 単位数	2年後期／演習 2単位（必修）	担当者	奥村 和則
授業概要	デジタルデバイスを用いて、実践的なデザイン制作を行っていく上で、自分自身の表現力と他者への伝達力の向上を計らなければならない。本講義では、技術や知識の習得だけではなく、デザイン業界で必要とされる柔軟な思考とレスポンスの向上を目指す。 前半はクリエイティブテスト形式を用いて、短時間型の課題を数多く行い、後半はデザイン現場で行われている制作方法と同一条件で、全15段の新聞広告の制作を行う。				
授業計画	① インTRODクシヨン ② 素材感の表現 ③ オリジナルブラシとシンボル ④ オリジナルパターンとグラデーシヨン ⑤ 成果発表 ～プレゼンテーシヨン～ ⑥ 短時間での発想・制作・伝達 B ⑦ 短時間での発想・制作・伝達 R ⑧ 短時間での発想・制作・伝達 W	⑨ 成果発表 ～プレゼンテーシヨン～ ⑩ 新聞全段広告の制作(1)－企業選定・調査 ⑪ 新聞全段広告の制作(2)－メインコピー ⑫ 新聞全段広告の制作(3)－ボディコピー ⑬ 新聞全段広告の制作(4)－カンパ制作 ⑭ 新聞全段広告の制作(5)－ヴィジュアル制作 ⑮ 新聞全段広告の制作(6)－フィニッシュワーク ⑯ 成果発表 ～プレゼンテーシヨン～			
評価方法	出席状況・授業態度30%、プレゼンテーション・提出物70%				
履修条件	なし				
教科書	なし				
参考書	初回の講義で指定する				

生活デザイン学科

科目名	課題研究	配当年次 単位数	1年後期/演習 2単位(選択)	担当者	生活デザイン学科 教員
授業概要	生活デザイン学科の各教員に少人数の学生を配属し、教員の指導のもとで関心のあるテーマについて、研究、制作、発表、または専門にかかわる文献や外書の輪読などを行う。教員の専門分野についてガイダンスを行った後、受講者の希望と教員との相談をもとに、配属研究室を決める。1年前期の履修科目の成績で配属研究室を調整することがある。				
授業計画	<p>担当教員と話し合って研究テーマを設定して、研究活動、制作活動を行う。</p> <p>(1)「教養演習」でガイダンスを実施後、希望研究室調査書を提出する。</p> <p>(2)調整の必要がなければ、配属を掲示発表する。</p> <p>(3)調整が必要な場合は、調整後配属を掲示発表する。</p>	研究室	<ol style="list-style-type: none"> 1. ファッション造形・デザイン研究室 2. 材料学研究室 3. ファッションマーチャンダイジング研究室 4. 建築構造・材料研究室 5. インテリアデザイン研究室 6. グラフィックデザイン研究室 7. メディアデザイン研究室 8. 情報デザイン研究室 		
評価方法	研究、制作過程や成果を判定し、各担当教員が決定する。				
履修条件	選択科目であるが、2年次の卒業研究を円滑に進めるためには、受講することが望ましい。				
教科書	担当教員の判断による。				
参考書	担当教員の判断による。				

生活デザイン学科 (開放科目)

科目名	生活環境学	配当年次 単位数	2年後期/講義 2単位(選択)	担当者	太田 幸一
授業概要	<p>衣服によって形成される「衣環境」や、住居によって形成される「住環境」は、人間を取り巻く自然、人工、社会、情報といった様々な環境と深く関わり、一番身近な個環境と位置づけられる。</p> <p>人間が生活する時には、人体生理、温熱環境条件、衣服気候、保温効果、室内気候、安全性など、人間を中心とした周囲環境との関係を理解することが重要である。日常生活の様々な場面における、健康で快適な生活環境のあり方を、人間の「第二の皮膚」といわれる衣環境を重点に、人間の側から考える。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 環境とは ② 衣環境・住環境の快適性 ③ 暑さ寒さの快適性(1)体温とその調節 ④ 暑さ寒さの快適性(2)体内での熱移動 ⑤ 暑さ寒さの快適性(3)自律性体温調節反応 ⑥ 暑さ寒さの快適性(4)熱と水分の移動 ⑦ 衣服圧と快適性(1)人体の形状と運動変形 ⑧ 衣服圧と快適性(2)衣服圧と生理心理反応 	<ol style="list-style-type: none"> ⑨ 衣服圧と快適性(3)衣服圧の生体への影響 ⑩ 皮膚の衛生と皮膚障害(1)皮膚の構造と生理 ⑪ 皮膚の衛生と皮膚障害(2)皮膚の汚染と衛生 ⑫ 皮膚の衛生と皮膚障害(3)衣服による皮膚障害 ⑬ 肌着の快適性と健康 ⑭ 履物と靴下の快適性と健康 ⑮ 寝衣と寝具の快適性と健康 ⑯ 試験(記述式、持ち込みは不可) 			
評価方法	出席状況・受講態度20%、期末試験80%で、総合判定する				
履修条件	なし				
教科書	建帛社「衣環境の科学」				
参考書	成山堂「衣服と気候」、南江堂「新しい被服衛生学」				

生活デザイン学科

科目名	テキスタイルデザイン	配当年次 単位数	2年後期/演習 2単位(選択)	担当者	太田 幸一
授業概要	<p>生活材料としての繊維製品には、織物、編物、レース、皮革等があり、広い意味でのテキスタイルデザインは、糸の種類や色、布の柄組織やパターン、布の染色図案を考えて、布地全体のデザインをすることである。</p> <p>しかし、本来のテキスタイルデザインとは、織物の意匠・図案のことで、織柄デザインを意味する。</p> <p>テキスタイルデザインでは、織物のたて糸、よこ糸の使い方による織柄や、さまざまな組織の変化による織柄の基本について組織図を描いて修得するとともに、ミニチュア織機で小作品の制作を行う。</p>				
授業計画	① テキスタイルデザイン(素材)の概要説明 ② ミニチュア織機の使用法(1) ③ ミニチュア織機の使用法(2)織物の企画設計 ④ 課題作品(ストライプorチェック柄)の企画設計 ⑤ 課題作品の制作(1)・織物シミュレーション ⑥ 課題作品の制作(2) ⑦ 課題作品の制作(3) ⑧ 課題作品の制作(4)・仕上げ	⑨ 自由作品の図案・企画設計 ⑩ 自由作品の制作(1) ⑪ 自由作品の制作(2) ⑫ 自由作品の制作(3) ⑬ 自由作品の制作(4) ⑭ 自由作品の制作(5) ⑮ 自由作品の制作(6)・仕上げ ⑯ 自由作品の発表とまとめの講義			
評価方法	出席状況・受講態度40%、作品の評価60%で総合判定する				
履修条件	1年次で生活材料学を受講することが望ましい。緻密な作業が伴うので、根気を必要とする。				
教科書	概要を記したプリントを配布する。織機の使用にあたっては、解説書・解説ビデオ等を参考にする。				
参考書	文化出版局「ハンドウィービング」、美術出版社『織物』用具と使い方				

生活デザイン学科

科目名	地域・環境デザイン論	配当年次 単位数	2年後期/講義 2単位(選択)	担当者	柳田 良造
授業概要	<p>普段の暮らしでの建物・近隣環境から、都市・地域空間での生活行動まで、生活とのかかわりの中で環境とは何か、どうあるべきかを学びます。地球規模で語られる環境問題もその多くは、私達の日常の生活や行動に起因しており、環境に配慮した暮らしやデザインを考えることはその問題解決の第一歩になると考えています。講義では2コマ連続での大学の外での見学やフィールドワークを通し、実際のまちや建物を観察し、環境デザインの視点から、身の回りの場所、公共空間、都市・地域、様々な環境のあり方を学びます。</p>				
授業計画	① ガイダンス ② 住まいと暮らし ③ 都市・地域の地球環境問題 ④ まちづくりと環境デザイン ⑤ 農山漁村の環境と地域づくり ⑥ 見学 ⑦ 見学 ⑧ 岐阜のまちを考える	⑨ 都市のエコロジカルデザイン ⑩ 生活環境とユニバーサルデザイン ⑪ 車椅子を体験してみよう ⑫ 車椅子を体験してみよう ⑬ フィールドワーク・建築空間 ⑭ フィールドワーク・公共空間 ⑮ 建築・地域文化の継承と環境デザイン ⑯ 定期試験			
評価方法	出席状況・授業態度30%、レポート・定期試験70%				
履修条件	見学の交通費、入場料は各自負担				
教科書	『地域環境デザインと継承(シリーズ地球環境建築・専門編)』(彰国社)				
参考書	適宜、資料を配布する。				

生活デザイン学科

科目名	生活造形演習	配当年次 単位数	2年後期/演習 2単位(選択)	担当者	河西 栄二
授業概要	<p>本演習では、木を用いた手仕事で作ることができる生活道具に焦点を当て、デザインと製作を行う。対象物として、木のスプーンや豆皿、箸などを取り扱う。事例収集、材料・道具への理解、デザイン、制作、対象者の要望に応えるフィードバック、プレゼンテーションを通して、基礎知識とデザイン技術を習得する。学内での演習のほか、学外講義として、岐阜大学柳戸試験林での活動も行う。試験林のフィールドワークでは立ち木の様子、枝や葉の観察やスケッチを行う。また樹木標本や木の枝ボールペン作りなどを通して、素材の理解を深める。</p>				
授業計画	<p>課題「誰かのためにつくる木のスプーンや豆皿等」</p> <p>① ガイダンス 鉋(カンナ)を使い、箸をつくる</p> <p>② スプーン作りのためにヒアリングをして、デザインする</p> <p>③ バンドソーで木を切り出す、彫刻刀で匙面を掘る</p> <p>④ ナイフで削り出す</p> <p>⑤ サンドペーパーやオイルで仕上げる</p> <p>⑥ 使い心地のヒアリング</p>	<p>⑦⑧ 岐阜大学柳戸試験にて学外講義 試験林のフィールドワーク、研ぎの練習、見学</p> <p>⑨ 木の枝ボールペン作り、樹木標本作り</p> <p>⑩ 作りたい作品のデザインをする</p> <p>⑪ 道具を工夫して木を切り出し、削り出す</p> <p>⑫ 削り出す フィードバック</p> <p>⑬ 仕上げ</p> <p>⑭ 仕上げ</p> <p>⑮ 講評会</p>			
評価方法	出席状況・授業態度30%、課題70%				
履修条件	材料費の負担が必要。汚れても良い服装で来てください。				
教科書	特になし				
参考書	随時紹介する。				

生活デザイン学科

科目名	広告デザイン論	配当年次 単位数	2年後期/講義 2単位(選択)	担当者	折戸 加奈子
授業概要	<p>世の中には様々な広告デザインがあふれています。これら広告デザインにはいろいろな意味が隠されており、本講義では、そんな広告デザインの意味と役割について「ひもといて」いきます。その中で、広告デザインへの理解を深めることにより、デザインは“つなげる”ものだとより強く実感し、実務の現場において、クライアントの思いを汲み取る事とコミュニケーション能力が重要で、クライアントの思いをデザインする過程において、何が必要かを事例紹介とワークショップを通じ、双方向のコミュニケーション能力を高める実践学習をしてもらいます。</p>				
授業計画	<p>① デザインには意味がある導入(1)</p> <p>② デザインには意味がある導入(2) (世界のデザイン史)</p> <p>③ デザインには意味がある導入(3) (日本のデザイン史)</p> <p>④ どう伝える?-媒体をひもとく(1)-新聞媒体</p> <p>⑤ どう伝える?-媒体をひもとく(2)-サイン看板</p> <p>⑥ どう伝える?-媒体をひもとく(3)-ロゴマーク</p> <p>⑦ どう伝える?-媒体をひもとく(4)-紙媒体</p> <p>⑧ どう伝える?-媒体をひもとく(5)-パッケージ</p>	<p>⑨ どう伝える?-媒体をひもとく(6)-ホームページ</p> <p>⑩ ワークショップ(1) 企画骨子の草案</p> <p>⑪ ワークショップ(2) ラフ制作(伝える・発見1)</p> <p>⑫ ワークショップ(3) ラフ制作(伝える・発見2)</p> <p>⑬ ワークショップ(4) ラフ制作(伝える・発見3)</p> <p>⑭ ワークショップ(5) ラフ制作(伝える・表現4)</p> <p>⑮ プレゼンテーション&講評</p> <p>⑯ 全体講評・まとめ</p>			
評価方法	出席状況・授業態度15%、プレゼンテーション45%、提出物40%				
履修条件	制作に必要な画材は各自負担				
教科書	なし				
参考書	適時案内				

生活デザイン学科

科目名	卒業研究	配当年次 単位数	2年全期/演習 4単位(必修)	担当者	生活デザイン学科 教員
授業概要	生活デザイン学科で習得する知識、技術を生かして、総合的に研究、制作に取り組む。 1年次、12月に開催される2年生の卒業研究発表会・展示会で、研究発表や制作作品を聴講または見学し、1月に研究室の希望調査書を提出する。研究室ごとの人数を調整後、所属研究室を決定する。 2年次進級後、各自の配属研究室で、担当教員と相談の上研究テーマを設定し、年間を通じて研究活動、制作活動を行う。1年次全期の科目の成績で配属先を調整することがある。				
授業計画	(1) 研究テーマの設定、活動計画立案 (2) 中間発表会 夏季休業中に開催 (3) 卒業研究発表会 ・口頭発表、ショー発表 ・作品展示 (4) 記録集の写真撮影と、要旨集原稿の提出 (5) 研究室によっては論文集を作成する	研究室	1. ファッション造形・デザイン研究室 2. 材料学研究室 3. ファッションマーチャンダイジング研究室 4. 建築・都市デザイン研究室 5. 建築構造・材料研究室 6. インテリアデザイン研究室 7. グラフィックデザイン研究室 8. メディアデザイン研究室 9. 情報デザイン研究室		
評価方法	研究、制作過程や成果を判定し、各担当教員が決定する。				
履修条件	12月に開催される2年生の卒業研究発表会・展示会で、研究発表や制作作品を必ず聴講・見学すること。 また、1年次の専門教育科目のうち、必修科目について80%を超える単位を取得していること。				
教科書	担当教員の判断による。				
参考書	担当教員の判断による。				

生活デザイン学科

科目名	インターンシップ	配当年次 単位数	1・2年全期/集中 2単位(選択)	担当者	村上 真知子
授業概要	それぞれの専門分野に応じた企業、または将来の職業に関連した企業で、一定期間企業研修を受ける。 企業人としての実務を体験することによって職業意識を高めるとともに、企業・職種とのマッチングを見極める機会とする。さらに、企業研修をとおして、学ぶことの意味を問い直し、学習意欲の向上に結びつける。 長期休暇を利用した研修が望ましい。				
授業計画	インターンシップ申し込みから実施までの流れ ① 担任が4月のガイダンスで、概要を説明する。 ② 研修を希望する学生は、研修希望の企業を、担任をとおして進路支援委員の教員に伝える。 ③ 学生は、インターンシップ登録カードを担任に提出する。 ④ 進路支援委員は、受け入れ企業との調整を行う。	⑤ 企業研修(2週間) ⑥ 研修終了後、研修日誌を担任へ提出する。 ⑦ 進路支援委員、教務委員は、担任に提出された研修日誌、受け入れ企業担当者の評価をもとに、成績判定、単位認定を行う。			
評価方法	研修日誌(60%)、受け入れ企業担当者の評価(40%)を総合して評価する。				
履修条件	1日8時間、実質10日間の研修を体験し、研修日誌を提出する。				
教科書	適宜				
参考書	適宜				